平成元年度 帰国研修員フォローアップチーム報告書 ーインダストリアル・デザインー

平成元年8月

国際協力事業団研修事業部

研 三 J R 89-41

# 平成元年度 帰国研修員フォローアップチーム報告書 ーインダストリアル・デザインー

LIBRARY 1080970[5] 2097/5

平成元年8月

国際協力事業団研修事業部

国際協力事業団

20915

この報告書は国際協力事業団が実施しているインダストリアル・デザインコースに参加した帰国研修員に対するフォローアップ事業の一環として、さる平成元年7月19日から8月7日までの20日間、チリおよびブラジルに派遣した帰国研修員フォローアップチームの業務報告である。

本報告書により、帰国研修員の自国における活動状況、研修員受入事業およびフォローアップ事業に対する要望事項について、関係各位のさらに深いご理解をいただき、 今後これらの事業の向上改善に資することができれば幸いである。

なお、本フォローアップチームの派遣に際し、なみなみならぬご協力を賜った外務 省、通商産業省および現地在外公館等の各位に感謝の意を表します。

平成元年8月

研修事業部長 御手洗 章 弘

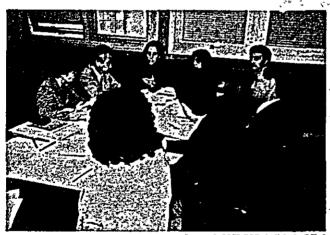


国家企画庁 (ODEPLAN) 国際技術協力部長表敬訪問

カトリック大学にて帰国研修員3名 との面談



# 〈ブラジル〉



サン・パウロ州工業連盟インダスト リアルデザインセンター (FIESP /NDI) 訪問

技術セミナー (於:在リオ・デ・ジャネイロ日本国総領事館広報文化センター)



# 目 次

1. フォローアップの概要	
1. コース概要	1
2. 派遣国および派遣期間	1
3. 派逃目的	1
4 . フォローアップチーム構成	2
5.日 程	2
6 . セミナーの実施	3
Ⅱ.フォローアップ結果	
1. チリ	
(1) 主な訪問機関ならびに面談内容	4
(2) セミナーの実施	8
2. ブラジル	
2. 1. サン・パウロ	
(1) 主な訪問機関ならびに面談内容	9
(2) 帰国研修員に対する面接調査	11
	13
2. 2. リオ・デ・ジャネイロ	
(1) 主な訪問機関ならびに面談内容	13
(2) セミナーの実施	15
3. 帰国研修員宛質問表による調査結果	15
3.1.帰国研修員への質問表の配布・回収状況等	
3.2.質問項目ならびに回答結果	
4 · MI ESTANATO - ENDO 1 · - 1 · 1 · O FOLDATO	29
	31
Ⅲ. まとめ	39
別 添 1. サマリーレポート(チリ)	40
2. サマリーレポート(ブラジル)	43
資 料 (1) 帰国研修員宛質問表フォーム	47
(a) Milhoo I to	58
(3) 年度別研修員参加実績	61
	62

# 1. フォローアップの概要

## 1. コース概要

# (1) コース沿革

インダストリアル・デザインコースは途上国のデザイン振興に寄与するため、 当該国において中核となるデザイナーの知識・技術の向上を目的として、昭和 49年度に開設された。その後、昭和51年度よりは、コースの内容を 「インダストリアル・デザイン」、「インテリア・デザイン」、「バッケージ・ デザイン」の3分野に分け、各分野のコースを順々に実施している。昭和63 年度で第15回を迎え、これまでに参加した研修員は、22か国・1地域より、 総計100名にのぼっている。

## (2) 実施体制

当事業団が、財団法人日本産業デザイン振興会(JIDPO)との間に研修委託契約を締結し本コースを実施している。(財)日本産業デザイン振興会は、実習などについては、当該年度のコース分野により、それぞれ、社団法人日本インダストリアルデザイナー協会(JIDA)、社団法人日本インテリアデザイナー協会(JID)、および社団法人日本バッケーシデザイン協会(JPDA)の協力を得て、本コースの実施にあたっている。

#### (3) 研修日程

資料(2)研修日程表(昭和63年度・インテリア)参照

# 2. 派遣国および派遣期間

- (1)チ リ (平成元年7月20日~7月26日: 7日間)
- (2) ブラジル (平成元年7月26日~8月 5日:11日間)

#### 3. 派遣目的

本フォローアップチームは、これまでに参加実績のある22か国・1地域のうちの上記2か国を対象に、今後の研修員受入事業の向上改善を図るため、下記の各項目を目的として派遣された。

- (1)帰国研修員(チリ:4名、ブラジル:17名)との面接(および質問表の配布・回収)ならびに所属機関・関係機関の訪問により、本コース参加の成果および研修事業に対する要望等の調査を行い、さらに当該国のデザイン分野の現状・技術的問題点の把握に努める。
- (2)技術協力窓口機関を訪問し、木コースGeneral Information (GI)の配布 先および資格要件・選考プロセス等の調査を行う。
- (3) 帰国研修員ならびに関係者を対象として現地にて技術セミナーを開催し、 日本のデザイン行政の紹介および最近のデザイン情報を提供する。

## 4. フォローアップチーム構成

氏 名	担 当 粜 務	所 属 先
金子修也	団 長 総 括	株式会社 GKグラフィックス 取締役副社長
高萩恵子	デザイン振興政策	通商産業省 貿易局 検査デザイン行政室 振興係長
齋 藤 雅 治	業 務 調 <u>整</u>	国際協力事業団 研修事業部研修第三課

#### 5. 日 程

7月19日(水)東京

20日(木) → リオ・デ・ジャネイロ (RG-831) リオ・デ・ジャネイロ → サンチァゴ (RG-920) JICA事務所訪問打合せ

21日(金)午前:日本大使館表敬訪問、国家企画庁(ODEPLAN) 表敬訪問

> 午後:カトリック大学デザイン学部訪問・帰国研修員との 面接調査

- 22日(土)技術セミナー準備等
- 23日(日)資料整理
- 24日(月)午前:技術セミナー準備

午後:-技術セミナー開催 (於:HOTEL CARRERA, SALON PUYEHUE)

- 25日(火)カトリック大学デザイン学部訪問 JICA事務所帰国報告→バシフィコ職業専門学校デザイン 学部にて、チリ・プロデザイナー協会のメンバーと懇談
- 26日 (水) サンチァゴ → サン・パウロ (RG-921)
- 27日(木)午前: JICA事務所訪問打合せ、日本総領事館表敬 午後:手工芸村にて地域の伝統技術等の事情調査
- 28日(金)午前:サン・パウロ州工業連盟 (FIESP) インダストリアル・デザインセンター訪問 午後:サン・パウロ技術研究所 (IPT) 訪問
- 29日(土)技術セミナー準備等
- 30日(日)資料整理
- 31日(月)午前:技術セミナー準備・帰国研修員との面接調査 午後:技術セミナー開催(於:ニッケイパレスホテル)

8月 1日 (火) サン・パウロ → リオ・デ・ジャネイロ (RG-623)

午後: JICA事務所訪問打合せ、日本総領事館表敬

2日 (水)午前:リオ・デ・ジャネイロ大学インダストリアル・デザイン

学部訪問

午後:リオ・デ・ジャネイロ・カトリック大学美術学部訪問

3日(木)午前:DIA DESIGN訪問・帰国研修員との面接調査

午後:GLOBO TV見学

技術セミナー開催(於:日本総領事館広報文化

センター)

4日(金) JI C·A 事務所帰国報告

5日(土)リオ・デ・ジャネイロ

6日(日)

7日(月)

→ 東京(RG-830)

# 6. セミナーの実施

今回フォローアップチームを派遣した2か国(チリ:サンチァゴ、ブラジル:サン・パウロ、リオ・デ・ジャネイロの計3か所)において、日本のデザイン行政の紹介(担当:高萩団員)、「デザインとは何か」と題する誘義、およびスライドを用いデザインの事例紹介(担当:金子団長)による技術セミナーを開催した。(各セミナーの詳細は「II.フォローアップ結果」を参照願いたい。)

# 11. フォローアップ結果

#### 1. チリ

(1)主な訪問機関および面談内容 (日本側)

ア. JICAチリ 事務所

訪問日時: 7月20日 17時~18時 面談者: 倉持所長、研修担当 鈴木所員

面談内容:調査日程、セミナー準備、訪問先のアレンジ等につき打合せを

行なった。また、最近のチリ国内事情について、所長より説明を受けた。その中で、近年これまでの一次産品を主とする輸出から加工産品輸出を目指す動きが高まっており、その結果として、製品の包装を改善する必要性が徐々に認められつつあるとの情報を得た。

イ. 在チリ日本国大使館

訪問日時:7月21日 10時~10時30分

面 談 者:野見山大使、大平一等書記官

面談内容:団長より今回のフォローアップ調査の目的および本コースの概要

等を説明した。さらに、セミナーにて使用するスライドを用いて

最近の日本のデザイン事情を紹介した。

大使は、チリがラテン・アメリカ諸国の中で最も非ラテン的な国であると思われることや、チリ人の国民性からくる色彩感覚は概して地味であることを指摘された。

また、これまで銅鉱石をはじめとする一次産品等の輸出が主体であったチリ経済も、徐々に製品輸出が拡大の途にあり、バッケージ・デザインの必要性がわずかながら認められるようになってきたが、まだまだパッケージそのものが消費性向を左右する状況には程遠いとの意見を述べられた。その上で、今後発展が期待されるデザイン分野としては、インテリア・デザインではないかとの意見を述べられた。これは、チリの主要日刊紙(LA TERCERA)で週に一度インテリアについての特集(SU CASA)が組まれており、人々の関心が比較的高いとの情報に基づくものである。

# (チリ側)

・ヴァチリ国家企画庁(OFICINA DE PLANIFICACION NACIONAL: O D E P L A N ) 国際技術協力部

訪問日時:7月21日 11時~11時30分

·面談者: Mr.EMRIQUE AMEZAGA CALWET

JEFE DE DIVISION COOPERACION TECNICA INTERNACIONAL

面談内容:団長より今回のフォローアップ調査の目的を説明した。
AMEZAGA 部長より、研修員受入をはじめとするJICA事業に対する謝意、ならびに本チーム訪問に対し歓迎の意が表された。
さらにチーム滞在中の多方面での協力を約束された。

チリよりは、これまでに4名の参加実績(いずれもカトリック大学より)がある。同行した倉持所長より、そのうち3名が現在もカトリック大学で教鞭をとっていることを説明した。

しかしながら、チリは昭和61年度(1986年度)以降本コースの割当国となっていない。この点について、同部長は、近年の多様な製品輸出拡大の方向に沿って、製品の容器・包装の改善を図るための包装技術センター設立構想に言及し、同構想に対するJICAの協力に期待する旨述べるとともに、来年度の集団コース要望調査については、本コースの割当を獲得すべく努力するとの意向を明らかにした。そのための基礎資料として今回のチームのセミナー内容等を十分に活用し、また、今後は、カトリック大学に限らず、チリ大学をはじめとする他の機関からも候補者を出したいとのことであった。

エ. チリカトリック大学デザイン学科 (ESCUELA DE DISENO, PONTIFICIA UNIVERSIDAD CATOLICA DE CHILE)

訪問日時:7月21日 16時~18時

<帰国研修員に対する面接調査>

面接者: Mr.JAIME ALFRED PARRA (82年 インテリアコースは参加)

Mr.CHRISTIAN OSCAR ALFERO (83年 インダストリアルコースに参加)

Miss MARIA LORETO VALDES ARRIETA (84年 パッケージコーな 参加)

面接内容:帰国研修員側より、本チームに対する歓迎の意が表された。これまでにチリより受入れた4名の研修員は、すべて同大学の教師であったが、帰国後も彼らは同じ職に留まっている。今回は文部省の国費留学生として2年間の予定で京都大学に留学中の1名を除く3名と面接することができた。

Mr.ALFERO は、1986年から約3年間シカゴのイリノイ大学 (Illinois Institute of Technology)に留学し、CADなどコンピュータを駆使したデザインに取組み、1987年の大阪デザイン・コンペティションで共同研究ながら大賞を受賞する功績を修めた。また、Miss LORETO は、昨年より「VAS」というパッケージ技術・デザインの雑誌の編集委員としても活躍している。

同大学のデザイン学部においては、一学年50名程度が毎年入学 し、そのうち20名程度が卒業、さらにそのうちの10名程度が 卒業後に試験を受けデザインのtitle(日本の大卒の学士と は異なり、建築士の資格のようなもの)を取得するという状況で ある。チリでは、デザインは女性がするものという考え方があり 成績優秀な男子学生は医学部や理科系に進学するため、同学部 学牛の約95%は女性であるとのこと。卒業生が、製造業などの 産業界にデザインを武器に就職するのは、現在までのところは 難しく、卒業後はフリーでデザインを行うものも多い。 近年、一次産品輸出から加工食品等の製品輸出を促進する動きが 進むにつれて、徐々にデザインの必要性が認識されるように なってきた。しかし、そうした新しい考え方を持った若い経営者 の企業を除き、多くの企業は、広告や宣伝に多額の資金をつぎ 込む反面、パッケージ等のデザインには、いまだにそれほどの 注意を払っていない。一般の人々もショーウインドウのデザイン を写真に撮って模倣したほうが早くて楽であるというような意識 しかなく、また、外国のデザインのコピーを特に気にすることも なく購入するなど、それほどデザインへの関心は高くないことが うかがえるとのこと。したがって、チリの国民全体とりわけ産業 界に対し、デザインの重要性を理解させる必要があり、同学部で は、民間の経営者等を対象としたデザイン関連の公開講座(CURSO DE EXTENSION)を開いている。帰国研修員側より今回のセミナー がその一助となることを期待する声があった。

#### くデザイン学部>

面談者:Mr.ALBERTO PIWONKA

DIRECTOR, ESCUELA DE DISENO

Mr.JAIME FARFAN

VICE DIRECTOR. ESCUELA DE DISENO

Mrs.JOSEFINA ARAGONESA

REPRESENTATIVE OF VICE RECTOR

Mr.PEDRO MURTINHO

DEAN, FACULTY OF ARCHITECTURE AND ARTS

\*Mr.JAIME ALFRED PARRA

TEACHER TEACHER

\*\*Mr.CHRISTIAN OSCAR ALFERO

TEACHER

Mrs.ISABEL BAIXAS -Mr.OSCAR RIOS

TEACHER

\*Miss MARIA LORETO VALDES

**TEACHER** 

(\*は帰国研修員)

面談内容:冒頭 PIFONKA学部長より、同学部からの4名の研修員受入を はじめとするJICA活動を評価している旨のコメントがあり 本チーム歓迎の意が表された。同学部では、上に述べたように 産業界との緊密な関係を特に重視しており、社会が求める デザインを生み出すことのできる技術の修得を目指しているとの こと。そのために、同学部からの候補者を日本での研修に参加 させることは、ひいてはチリ全体のデザインレベルの向上に 大きく貢献するものとの意見が示され、今後の研修コース参加の 希望が述べられた。

> 同学部長の挨拶に続き、学生の卒業製作や Mr.ALFEROの大阪 デザイン・コンペティション受賞作品等のスライド上映が行わ れた。

オ. バシフィコ職業専門学校デザイン学部(ESCUELA DE DISENO, INSTITUTO PROFESIONAL DEL PACIFICO) (プロデザイナー協会会員との懇談)

訪問日時:7月25日 19時~20時

面 談 者:Mr.HECTOR ANTONIO TOLEDO TUENTES

DISENADOR PAISAJISTA (環境デザイナー). PRESIDENTE, COLEGIO DE DISENADORES PROFESIONALES DE CHILE(プロデザイナー協会)

Mr.JOSE KORN BRUZZONE DIRECTOR, ESCUELA DE DISENO

Mr. ALEJANDRA ESTRADA M.

COORDINADOR DOCENTO (教育担当)

Mr. ARTURO MOLINA C.

JEFE DE CARRERA (コース主任), INSTITUTO PROFESIONAL DE PROVIDENCIA

面談内容:同協会はグラフィック分野、エクステリア(環境空間)分野の のデザイナーを中心に、インテリアや服飾デザイナーも含め総計 約300名の会員をもつチリのプロ・デザイナーの協会である。 帰国研修員の Miss LORETOは、本協会の会員となっており、会報 (DE DISENO)の編集委員をしている。

> 同協会より今回のチーム来訪が、日・チリ両国間のデザイン交流 につながることを強く期待するとのコメントが出された。次に、 デザインのコピーが氾濫し、ほとんど野放し状態にあるチリ国内 の現状から、デザインを登録してコピーを規制することが必要と 考える者もいるが、一方で、そうした規制が結局は自らコピーを 多く、規制の網に入ることを躊躇する動きも予想されるとの意見 が出された。そして、セミナーの内容を踏まえ、日本ではどの ように民間を指導し規制しているのか、また、それに対する民間 の対応はどうかについて質問された。これに対し、団長より、 そうした規制を導入し民間の加入を求めることは、法の下の保護 と拘束の二つの側面を持っているが、それでも自分のデザインが 守られることは結局自分の利益につながることを理解させる必要 があることを説明した。

同協会によれば、チリ国内では現在のところ民間を指導するような政府レベルの動きは皆無であり、日本の通商産業省にあたるMinisterio de Comercio Exterior (対外貿易省)には、輸出製品のデザインに係る部署はなく関心もないとのことであった。また、ピノチェト大統領の軍政から民主化への移行が現在進行中で、7月30日には、54か条からなる憲法改正の国民投票がせまっており(投票の結果、賛成が約86%で憲法改正が支持された。)、新しい政府に対する大きな期待がうかがわれ、これを機会に政府への働きかけを強め、国全体のデザイン意識を高めたいとの意見が出された。

# (2) セミナーの実施

開催日時:7月24日 15時~19時

会 場: HOTEL CARRERA SALON PEYEHUE 帰国研修員3名、カトリック大学、ODEPLAN、チリ大学などから総計 30名の参加者を集め、セミナーを開催した。

#### 内 容:

- ア. 「日本のデザイン行政」、講師:高萩団員
  - ・通商産業省におけるデザイン行政の歴史
  - ・グッド・デザイン商品 (Gマーク商品) 選定事業についての説明 (目的、分野、方法、効果等)
  - ・ 通産省が認可している 1 1 のデザイン団体の紹介
  - ・JICAの実施する研修事業に対する協力
  - ・Gマークミッション等の派遣について・
  - ・ '89デザイン・イヤー運動の概要説明ならびに事例紹介
- イ. 「デザインとは何か」 講師:金子団長 金子団長の著書である「パッケージ・デザイン - 夜も地球も パッケージ」の内容に沿って、デザインの概念、空間・情報・道具の各 装備としてのデザインを事例を挙げながら説明。
- ウ. スライドを用いたデザインの事例紹介 これまでにGKグループ各社が手がけた環境デザイン(横浜博覧会、 テクノ・パーク等)、サイン・デザイン(JR新宿駅、とべ動物園等)、 パッケージ・デザイン(コーヒー、カニ缶)、インダストリアル・デザイン(魔法瓶、ステレオ)などの作品を紹介。

#### 2. ブラジル・

2.1.サン・パウロ

(1) 主な訪問機関および面談内容

(日本側)

ア. JICAサン・パウロ事務所

訪問日時:7月27日 9時30分~10時

面 談 者:北村所長、小牧所員

面談内容:調査日程、セミナー準備、訪問先のアレンジ等につき打合せを

行なった。

イ. 在サン・パウロ日本国総領事館

訪問日時:7月27日 10時30分~11時

面 談 者:南野領事

面談内容: 本チームの訪問目的を説明、またセミナーの内容を簡単に紹介

した。領事よりは、サンパウロ州がブラジル経済の中心であり、

GNPの約50%は同州が占めているとの説明があった。

(ブラジル側)

ウ. サン・パウロ州工業連盟インダストリアル・デザインセンター

(NUCLEO DE DESENHO INDUSTRIAL, FEDERACAO DAS INDUSTRIAS DO ESTADO DE

SAD PAULO: FIESP)

訪問日時: 7月28日 10時30分~14時

面 談 者: Ms.JOICE JOPPERT LEAL

CHEFIA, DEPARTMENTO DE TECNOLOGIA

Mr. EDSON FERMANN

ASSESSOR TECNICO, DEPARTMENTO DE TECNOLOGIA

Ms. CIBELE MARTINS

ASSISTENTE DO DEPARTMENTO, DEPARTMENTO DE TECNOLOGIA

Ms.LEILA VASCONCELLOS

SECAO DE DIFUSAO DA INFORMAÇÃO, DEPARTMENTO DE TECNOLOGIA

面談内容:同センターは、10年前にインダストリアル・デザインの普及を目的として設立された。デザイン関連の展覧会・デザインコンクールの開催や、連盟内談師および民間企業者を対象とする講習・研修の実施を主たる事業としている。同連盟には119の組合および6~7万の企業が加入している。民間企業に対しては商品開発の基礎となるモデル製作の指導等を行なうとともに、インダストリアル・デザインが、直接技術開発に関係していることや、材料の選定にも深く関わっていることを理解させるように努めているとのこと。同連盟は、ブラジル国内においては、デザイナーたちが、連邦政府や通産省、新しいソフトの所有権に係る業務を担当する特別情報局などにデザイン開発の資金援助を申し込んだり、国内のコンペに参加したりする際の窓口となる。

また、FINEPという連邦政府の機関が民間部門に対して研究開発資金の補助を行なっているが、同連盟は、FIESP内および他の研究機関への資金配分を任されている。

同時に、連邦政府を通じ世界銀行の助成金を得て、国外のデザイン開発にも努力しており、国際インダストリアルデザイン団体協議会のPromotional Memberにもなっている(本デーム訪問後の8月2日には、同センター技術部主催の同協議会会長のMr. Robert Blaich の講演会が予定されていた。)。

これまでに同連盟より本コースに参加した研修員は、同連盟がコースについて広報し、コンサルタントという形で同連盟に籍をおき参加したもので、実際上は民間レベルでデザイン業務を行なっている。ブラジル国内にもデザイナー団体はあるが、活動があまり活発でないこともあって、デザイナー側からの信頼は低く、同連盟に加入しているデザイナーが多いとのこと。

今後の本コースに対しては、参加定員増の希望や同連盟内部からの参加の意向の他、デザイナーのみでなく、その上に立ってデザイン情報の管理、デザイン振興の職に携わる人々を対象とするコースの実施ならびにグラフィック・デザインコースの新設など多くの要望が出された。また、ブラジル国内で実施するデザイン関連の展示会やワークショップの開催のための短期専門家の派遣、日本とのデザイン情報の交換など、日本とのより緊密な協力を望む意見が出された。

エ. サン・パウロ州技術研究所 (INSTITUTO DE PESQUISAS TECNOLOGICAS DO ESTADO DE SAO PAULO : I PT)

訪問日時:7月28日 14時30分~16時

面談者: Mr.AMANTINO RAMOS DO FREITAS

COORDINATOR FOR INTERNATIONAL RELATIONS

面談内容: RAMOS 所員より J P T の設立、経緯、予算、組織概要等について 説明を受けた。

同研究所は、かつてはサン・パウロ大学の傘下にあったが、1944年に独立し、現在のように州が管理する総合技術研究所となった。事業予算の約7割は政府から支出されているが、近年の財政赤字のため緊縮財政策が恒常化しており、政府予算に代えて、自ら予算の確保に努める必要があるとのこと。最近の事業概要としては、代替エネルギーの開発や、雨季の遠隔地へのアクセスを確保するための道路建設、鉄道網システムの合理化など、きわめて多岐にわたっている。

同研究所は、ブラジルとりわけサン・パウロにおけるJICA 事業においてきわめて関わりが深いガウンターパート機関の1つ であり、内部に6名の委員からなるJICA委員会を組織し、 JICA関連事業の企画調整にあたっている。 同研究所木工部では、熱帯の木材の伐採を削減するため幼生 (促成)木材の使用を奨励する活動として、モデルハウスを建築 したり、組立・機械化が容易なオフィス用の家具のプロトタイプ 開発(約5千種)や木材の有効利用のための合板加工や腐食防止 の技術開発を行なっている。民間企業との関わりでいえば、研究 開発力(技術面・資金面とも)に乏しい民間から委託を受け、 研究開発等を進めているが、デザイン分野でいえば、広く一般に 好まれるデザインはどのようなものかなどといった視点ではなく 均質・大量生産を可能にする統一規格の家具を開発するといった レベルであり、製造者(供給側)の要求を満たすことをその研究 活動の目標としているように見受けられた。

# (2) 帰国研修員に対する面接調査

而接日時:7月31日 9時45分~12時30分

面接場所: JICAサン・バウロ事務所

面 接 者:Mr.LUIZ ROBERTÓ FARINA (81年 バッケージコール 参加)

Mr.MAURO TORRES DE CARVALHO (82年 インテリアコーな 参加)

Mr.MARIO NARITA (84年 パッケージコーXX 参加)

面接内容: Mr. FARINA は、1987年3月にBenchmark というデザイン・オフィスを米国資本との共同出資により設立した。サン・パウロならびにリオ・デ・ジャネイロにオフィスを置き、Johnson & Johnson、Nestle などの外資系企業との長期契約に基づくパッケージ・デザイン業務や、プラスチック・ガラス製品の会社の新製品開発に際しデザイン面での相談に応じるなど、幅広い

デザイン・サービス業務を行なっている。

Mr.CARVALHO は、AXISという家具製造販売会社を1987年10月に設立し、学校用家具の注文製作を行なっている。また、サン・パウロ技術研究所のコンサルタントとして活動している。Mr.NARITA は、現在MPM PROPAGANDAという広告会社において、グラフィック・デザイン部の主任の職にあり、ラベル・デザインや、企業マーク・シンボルなどのグラフィック・デザインを手がけている。

団長より、ブラジルにおけるデザインの現状と、デザイン振興を 進めるために必要なことについて、各帰国研修員に質問した。 それに対する回答は以下の通りである。

外資系の大企業はパッケージの重要性を理解しているが、州政府 および連邦政府からは、仕事の依頼も資金面での援助もない。 しかしながら、ブラジル国内のデザインに対するニーズは明らか に高まりつつあり、パッケージ専門のデザイン・オフィスは現在 のところ10しかないが、同様のデザイン・オフィスがあと5、 6事務所あっても充分やっていけるだけのデザイン業務がすでに 存在している。 大学卒業後すぐに、大企業やデザイン・オフィスにデザイナーとして就職するのはきわめて難しく、最初はフリーでデザインを手がけ、国内のデザイン・コンペなどでの受賞をめざし、名前を売ってから大手のデザイン・オフィスや大企業に就職するのが難しいけれども成功への残された道である。(Mr.FARINA)

家具分野では伝統的に好まれるデザインが決まっていて、業者は新しいデザイン・技術の導入に対して消極的であり、消費者は家具のデザインにあまりこだわらず、低価格で、最低限の機能が満たされていることを判断基準として商品を選択する。したがって、家具分野のデザイナーを育てる必要性も認識されていない。また、外国製品のデザインの模倣による家具製造も広く行なわれている。

一般の人々のデザイン意識が低いことの背景の一つには、国内のデザイン・コンクールがまだまだ少ないことが挙げられる。年に1、2回行なわれるグラフィック・デザインのコンペがあるが、政治的なコンペと化しており、特定のメーカーのみが受賞している。これはまた、新人デザイナーの発掘・社会進出を妨げる要因の一つともなっている。

ブラジルでは主なデザイン活動分野として、グラフィック・デザインが挙げられる。これに対し、プロダクト・デザイン分野は、外国製品のコピーが氾濫していることもあって、国内でデザイン開発を行なうインセシティブが低く、デザイナーに対する認識も著しく低い。家具会社についていえば、デザイナーを雇用しているところは約20%にすぎない。 (Mr.CARVALHO)

クライアントとの契約については、一企業とデザイン契約を締結しているときに、同業の他社とは契約しにくく、業務を請負ってから1年間は契約しないようにしている。(Mr.FARINA)

デザインそのものに価値を見出すことのできる真の意味での消費者と呼べるのは、中流階級以上の国民であるが、その数は総人口の約6%にすぎない。われわれデザイナーは、人々に言葉を用いてデザインを理解させるのでなく、よいデザインを生み出しその商品の売上を高めることにより、「デザイン導入が企業の利益に適うものであること」、「デザインに対する報酬が正当であり、かつ、適切に与えられるべきものであること」を本当の意味で理解させることをめざしている。(Mr. NARITA)

# (3.) セミナーの実施

開催日時:7月31日 15時~19時

会 場:ニッケイパレスホテル会議室

帰国研修員3名、およびFIESP、IPT、帰国研修員同窓会等から総計 30名の参加者を集め、セミナーを開催した。(内容はチリに準ずる。)

- 2. 2. リオ・デ・ジャネイロ
- (1) 主な訪問機関および面談内容

(日本側)

ア、JICAリオ・デ・ジャネイロ事務所

訪問日時:8月1日 15時~16時

面 談 者: 津浦所長、西島所員

面談内容:調査日程、セミナー準備、訪問先のアレンジ等につき打合せを

行なった。

イ. 在リオ・デ・ジャネイロ日本国総領事館

訪問日時:8月1日 17時~17時30分

面 談 者:塚田総領事

面談内容:本チームの訪問目的を説明、また木コースならびにセミナーの

内容を簡単に紹介した。

## (ブラジル側)

ウ. リオ・デ・ジャネイロ州立大学インダストリアル・デザイン学部 (ESCOLA SUPERIOR DE DESENHO INDUSTRIAL: ESDI, UNIVERSIDADE DO ESTADO DO RIO DE-JANEIRO)

訪問日時:8月2日 10時~12時

面談者: Mr.PEDRO LUIZ PEREIRA DE SOUZA

DIRETOR DA ESCOLA SUPERIOR DE DESENHO INDUSTRIAL

Mr.FERNANDO COIMBRA BUENO

(80年 インタストリアルコースヒ 参加)

面談内容:同校は1962年に設立されたブラジル最初のインダストリアル・デザインを専門とする学部である。学生数は約140名で毎年35名程度が入学する。インダストリアル・デザインならびにグラフィック・デザインを主体としており、なかでも写真分野が約6割を占めている。

SOUZA 学部長より国内のデザイン分野の現状について以下のような説明があった。

国内では、主な産業(工業)は南部、特にサン・パウロに集中しており、リオ・デ・ジャネイロにおいては相対的にデザインに対するニーズが少ない。デザインはファッションや流行と同等にみなされることも多く、消費者は製品のデザインの質をそれほど願みない。一言でいえば、デザインは、ブラジルにおいていまだに'not recognized'(その必要性を認められていない)状態にあるといえる。

教授陣は学外ではプロのデザイナーとして活動している。同学部としてはカリキュラム・指導方法をより実践的なものにすることを心がけており、小人数制のメリットを最大限に生かすべく努力している。高校卒業後入学する学生は、デザインの基礎となる作図等の能力を全く備えていないため、カリキュラム編成に際してはそうした基礎教育にも力をいれている。

また、現在post-graduatedレベルのコースはないが、開設のため 予算獲得に向けて努力している。

エ. リオ・デ・ジャネイロ・カトリック大学美術学部

(DEPARTAMENTO DE ARTES, PONTIFICIA UNIVERSIDADE CATOLICA DO

RIO DE JANEIRO: PUC-Rio)

訪問日時:8月2日 14時~16時

面 談 者: Mr. PARDE LAERCIO

REITOR

Mr.ELMER

DIRECTOR DO DEPARTAMENTO DE ARTES

Mrs.SANDRA BURLE MARX SMITH (87年 パッケージコースに参加)

面談内容: ELMER 学部長より同学部の概要について以下のような説明を 受けた。

> 同学部では、学生は障害を持つ人々や子供達など社会的弱者の 教育に役立つ製品のデザイン開発を進めており、そのいくつかは 州および連邦政府の資金援助をうけ製品化が実現している。また 開発したプロトタイプのテストに際しては、地域の障害者学校の 生徒などに協力を依頼し、意見や改善案をさらに役立てている。 教育方針としては、日常生活の中から問題点を発掘させ、学内に 持込みデザイン開発のプロセスを通じてそれを解決することを めざしている。デザイン・プロジェクトの「対象」ではなく、 デザインを進めていく「過程(での試行錯誤)」およびその底辺 にある「methodology (方法論)」を重視している。

> また、新聞社から依頼を受け、市場の商品についてサンプリング 等による多角的なテストを実施しており、消費者の「商品を見る 目」を育てるのに役立っている。

#### 才. DIA DESIGN

訪問日時:8月3日 10時~12時

面 談 者:Mr.RENATO DA SILVA GOMES (77年 インテリアコール 参加)

DIRECTOR

面談内容:Mr.RENATO は創立後15年を数える同社のDirectorの職にある。

同社は、リオ・デ・ジャネイロに約50名、サン・パウロにも 約10名の事務所を持つ。またボタフォゴにも別会社を設立準備

中である。

クライアントはIBM、XEROXなどの外資系企業を含み、 インダストリアル・デザイン、パッケージ、店舗、CI、広告 キャンペーン、社内コミュニケーション活動などのデザインを 展開している。

同社の事業方針としては、コミュニケーション、情報、製品の 三つの視点からデザインを構築しており、事業も着実に拡大して いる様子であった。

# (2) セミナーの実施

開催日時:8月3日 18時30分~21時

会 場:在リオ・デ・ジャネイロ日本国総領事館広報文化センター 帰国研修員4名、およびESDI、PUC-Rio、帰国研修員同窓会等 から総計57名の参加者を集め、セミナーを開催した。(内容はチリに 準ずる。)

# 3. 帰国研修員宛質問表による調査結果

3.1. 帰国研修員への質問表の配布・回収状況等

本フォローアップチームの派遣目的の一つである、本コース参加の成果ならびに 研修事業に対する要望等の調査のため、あらかじめチリ、ブラジル両国のJICA 事務所を通じ、各帰国研修員へ質問表(資料 参照)を配布し、チーム訪問時に 回収した。その配布・回収状況は次の通りである。

チ リ:帰国研修員4名中、日本に留学中の1名を除く3名より回収 ブラジル:帰国研修員17名中、所在不明、連絡不可の8名を除く9名に配布、 そのうちチーム訪問時に回収できなかった2名を除く7名より回収

3. 2. 質問項目ならびに回答結果

太チームで用いた質問表中の各質問は、次の8項目に大別される。

- (1) 現況などの一般的な質問
- (2) 現在の業務ならびに直面する問題、研修成果の活用状況など
- (3)研修コースの評価、改善案など
- (4)フォローアップ活動
- (5)帰国研修員同窓会活動など
- (6) 他国研修事業への参加
- (7) 当該国のデザイン事情一般
- (8) 当該国のデザイン教育制度、デザイン団体・協会、文献の有無および各人の参画状況

各帰国研修員の回答結果を次表に示す。

		于1 (協国研修員4名中3名)	
E Jr	Mr.Jaine Alfredo parra marchant 1982 47 <i>f4f47</i> 22-X	Nr. Curistian alfero R. 1983 42924777747472-3	HISS MANIA LONETO VALDES ANNIETA 1984 A+V-YF4473-1
1-75. 现 晾	Professor of Industrial Design (Perception & Computer Work-shop in Design). Escuela de Diseno, Pontificia Universidad Catolica de Chile	Organizator of Computer Process Laboratory. Escuela de Diseno, Pontificia Universidad Catolica de Chile	<ol> <li>Tracher, Escuela de Diseno, Pontificia Universidad Catolica de Chile</li> <li>Editor, VAS Packaging Magazine</li> </ol>
- 1: 現職と明修内容の 	・インダストリアルデザイン、プロダクト デザイン・製品的発に係るワークショップの ためのコンピュータ・ラボを管理、 プログラミングを行なっており、民間企業を プロダントデザインの面から支担している。 ・学生の研究プロジェクトに対する指導や指示 確案界の人々を対象にセミナーを開催	体系的なデザインのためのコンピュータ・プロセツング・ラギの設立をめざしている。 現在の次弦と回ば内容との直接の図道はない。	ゲナイン学母認信、VAS(バッケージ組誌)の 福米、デザイン・マーケティング、デザイン技術 の信託、フリー・シンサーとして存金素において セミナーを実場、現時は、(ボコースへの参加や はじめ)これまでパッケージの分野を専門にして また結果でいると思う。
11~2~4. 研修成果の活用と死政の協会	学生への別義、ワーク・ショップの時間、企業の 専門技術者、社営者に対するコースの開催、新聞 説明の別毎など	8 6~8 9 年にイリノイ工科大学(1 1 丁)での い究话動や技術文献・同窓会会和への寄訊、 セミナー、コースを通じ研修成果を伝達	ゲゲイン一段(型箔)、粒にパッケーツテナイン 活動 – 近川的 パッケーツ・プロジェクト、 パッケーツ知识の乱別の前端、パッケーツ図過 会社社((製造系統出間・販展器)、デディナー やショイントを対象とする結路の気筋、仲原た の試成など
11 — 6、欧路送行上の周辺点 11 — 7、周辺附決を妨げる奥区	ブロダクトデザイン関連の情報管理の手段が不足している。そのためにコンピュータ母人を選めているが、デザイン・プロセスにおいて活用するには不十分な状況にある。	カンピュータ・ラボに最初に導入したハードは枚柄が多い。	・クライアント、企業、デザイナー相互の緊密な 品をかけの欠如 ・ 斯たなデザイン開発の研究および投資の不足 ・ 小規模生産によるコスト高 ・ 世界的に適用する完全な形でのアイデア・製品 開発プロジェクトをまかなうだけの資金がない ・ 国内の情報不足
<ul> <li>□ 、</li></ul>	3 (適当) 2 (ややおしい) 5 (大いに適用できる)	3(函当) 3.(函当) 2 (少したけ適用できる) 現在の戦務はコンピュータ・グラフィックスで あってプロダクトデザインではないため	2 (やや煩い) 3 (適当) 3 (適当) 4 (かやり適用できる) 4 (かなり適用できる) シッショップが多く技術は温歩しなかった。しかし、デザインが船とデザインワークの考え方は、自団の学生たちに適用しうるもので有益だった。

5. 打益または興味を持った研修項目2つ おった研修項目2つ 6. みにつけた技術を賦務	a. 日本企業においてインダストリアルデザイン (10) が持つ重要な役割 b. 民間企業に向けての10振列政策 日本企業に対する10政策を結形に分析し、チリ	a. 日本のデザイン政策 b. Gマーク商品選定基準 c. 筑波のコンピュータグラフィックに係る研究 現在の方向で適当と考える。ハードとソフトが	a. 低と板を用いて3D形状によるデザインワークができること。 b. デザインワークメソッド パッケージの問題をデザインと抵折技術によって
# # # # # # # # # # # # # # # # # # #	の企業における事業の進め方について討論する		解決するデザイン関連の特定コースを設置する。 (空間特強の概念など)
、研修旅行・見学の消足度 低い場合の問題点と改啓窓	2(やや不常) 旅行の目的を明確にし、日本企業の1Dと製品 開発に重点を置く。	5 (充分消足している)	2 (やや不裕) と3 (まあまあ) の中間 さまざまなパッケーシ川連企業の全般的なツァー であった。もっと他の見学からも得るものが あったはず (それには時間を要するが)。
- 9、今後の町俗において 行益と思われるデザイン分野	プロダントデザイン、VISUAL COMMUNICATION	分野でなく瓜野なのは焦点と考える。システムとシステマティック・デザインをより重視すべき。	マーケティングの概念、色彩遊房法、プロダクト デザイン、C A D / C A M、バッケージング (容階、輸送、マーケティング起向のバッケージ ング)、様値製品、製品・家具デザイン
今後のコース国営に 役立つコメント	研修 <u>角それぞれの</u> 則味に広じ、時間を配分して ほしい。	工場兄学を増やす。研究模関とのコンタクトを密 にする。	各コース分野との関連で、類似の背景を借えている研修員が参加すれば集団として得るものは 多いはず。
<u> 小戏</u> 小戏	・リフレッシュ・トレーニング ・加国後に自国で事業を進めるうえで必要な機器 を供与してほしい	・リフレッシュ・トレーニング・日本の技術供与	・文献・艮析首相の送付 ・リフレッシュ・トレーニング ・兄川企業・研究所において研究・製品開発 ブロシェクトを共同で行うことを通じ技術指導 を図る。
v. 和匡师修贝问窓会话助符	A B E J A (ASOCIACION CILLERA DE BECARIOS DEL JAPON) ・セミナー等の変版 ・ホコース参加岩とも交友がある (チリ、他国 とも)	・ABEJAの会租に大阪デザイン・ フェスティバル受宜について寄用 ・ホコース参加者とのコンタクトなし	ABEJA ・会机の発行 ・ディナー、会話の開催 ・年に一回「日本」週間にカクテル開催
VI. 他国による研修コース等	<b>参加セゴ</b> ・	イリノイ工科大学で・86~、88 年プロダクト・ デザイン、デザイン・プロセスの研究を行なった また共同研究プロジェクトにより、87年の大阪 デザイン・フェスティバルにて大賞を受賞	イタリアInstituto Italiano Imballagio にて '86年「バッケージ材料と製造過程」の研修 コース(1. 5M)に参加
デザインに対する関心	<u>産業界:5(大いに関心がある)</u> 一般の人々:3(ある程度関心がある)	産 楽 界:2 (あまり囚心はない) 一般の人々:3 (ある程度関心がある)	高、次、第:2~3(少しは関心がある) 一般の人々:3(ある程度関心がある…教育 レベルや社会階層による)

₩ - 2.	各企業のデザイン邮報 の整備状況	未成人	産業界と接触がないのでわからない	傾して存在しない。デザインを媒体とする広告・ 印刷会社等がそうした分野での自分の楽務拡大の 必要を認識しはじめた。
ν. 1 3.	<b>消災者別向にもける</b> デザイン	<b>以近になってデザインの国政性を理解してなた。</b> 外国製品が好まれ、各企業はコピーを多用して いる。	個外の流行をやっと取り入れ始めた。	スポーツウェア:デザインの質は高い グラフィック:コンピプト・製品とも向上して いる バッケージ:IC・製能よりグラフィック主体 プロダント・デザイン:まだまだ向上の余地が ある 国内のトレンド社米国・欧州の流行・トレンドに
WI - 4.	製品的にとデザインの	チリの企業は倫別のためのデザインを、其に求めて いる。 国内市場はかさく、原材料倫別のみに依存 するのはほ済的不安定につながる。	<u>原産物・原材料の倫出…プロダクト・デザイン</u> 分野には歪っていない。	かっく。 さわかて重要。 倫人師の特徴(消費者の培財)に ついての知識があれば、より効果的な傷出を 行なっことができる。 傷出は国際値や力を獲得 する過程で出質の向上に確実に寄与する。 国内品 の質も向上させ、生活の質的向上(リーズナブル な物価)につながる。
₩ - 5.	デザイン商用の事例法制	チリ製品の大郎分はコピー	英例は知らない。 海外からモデルを取り入れ、 若干の修正を行ない、 法の規制を回避している。	ナベての分野で協用が存在する。デザインは コピー、あるいはわずかな修正を加えたもので ある。 外国のアイデア・物はよいもの ファッコ・アルなものと広く考えられており、 それを研究にしようとする。「気似は普通であり、 基本的な註様はあるが、デリは特許・所有権に 関するバリ協約に加盟していない。
17. 7.4. 7.4. 1 ~ 3	デザイン研修制度 デザイン団体・協会等 3. 公的デザイン研修制度	ない…できる可能性はある	ない…政府フスラドは可能	ない…そうした幻反の設立は、デザイナーやデゲイン教育者にかかっているが、独固で設能的な組織化がなされていない。
4, 5.	5. 民間デザイン研修制度	\AZ	ない	学校で行なわれるのみ
松斯群 	QUデザイン採収的を 和低等	tev	知らない	ない。
7. 民間 デザ	民間デザイン連合会デザイナー協会や	WA	近路を取っていない。	Colegio de Disenadores Profesionales de Fydy-Lige) (報意利のプロ・デザイナー協会) (技術: Nr. ANTONIO TOLEDO 会員(目):300名(グラフィッツ、製品、 インテリア、テクスタイル、関境) '89年6月 まで同協会の開会長を務める。毎3か月会報/ 年報を発行。(Wa-O. お照)

<ul><li>3. デザイン開発・振興・技術 文献</li><li>9. 以上各組織の活動への参加</li></ul>	INDUSTRIES (月刊) 近行元: SOFOFA ACUSTINAS 1357 piso 11 phone:698-2646 代校哲: Kr.Sengio Prieto	回左 IKDUSTRY誌に最近設けられたインダストリアル・ デザインセクションの軌筆を担当	De Dissuo Grafico (毎3か月) (と製者: ur. JOSE Kuiki unuzzone UUSTOS 1114 Santiago Chile 上記デザイナー仏会が発行…グラフィック中心 だがデザイン全分野に別かれている。担張に協力 している。 地口には「(63か月)上記デザイナー協会の会租 共同国兵等として活動。 上記デザイナー協会が発行する各誌の福集協力を 初めとするあらゆる分野でデザイン振興のため 活動している。
		ブラジル (帝国研修員17名中7名)	
項 目 -7 b. 现 晾	Kr.OSWALDO ANTONIO CORNEA MELLONE 1979 インデリアデザインコース MHD DESIGNPF/AT	Mr.FERNANDO COIMBRA BUENO 1980 429XN97R7V422-X Coordinator of Graphic Arts, R10 ARTE- Instituto Municipal de Arte e Gultura	Nr.LUII AODERTO FARINA 1981 Not-574173-2 Parlner & General Manager, DENCHMANK DO BRAZII. LIDA, (Package Corporate Idenlify & Design)
n - 1. 現職と所修内容の DD単 n - 5. 現在の英語の概要	・明修コースは家具分野に特定していたので、この分野の仕事が組えた。	ポスター・招待状・む指・パンフレットなどの 全面の光、サイン・システムのデザイン、 グラフィック・デザインなどを行なっている。 日本での研修は、仕事の考え方の面で役立って おり、デザインを表現する上での語問題の解決領 ともなっている。	ブラジルで設も大きなバッケージデッイン会社の 1つである周礼の女任者として、デザインの重要 性を知らしめるため活動している。バッケージ・ディイン・ワークの方法館を扱えている。 日本での頃像内容は、会社の責任者としての然初 に直接関わっている。頃像成果をデザイン開発に 後立てており、シライアントにデザイン環路の 重要性を示している。
- 2~4. 研修成果の活用と発表の数会	On-the-Job Training において括別	グラフィック・デザイナー、およびフリーのインダストリアル・デザイナートしての現在の活動は、参加したインダストリアル・デザインコーカーと直接結び付く、砂棒成果はOn-the-Job Trainingにおいて活用しており、大学での4回の誤説を通じ、学生たちに対し記数した。	バッケージ分野 (3 DPRのデザイン・プロセス) 1. デザイン型略の評価 2. (1相の「方法節(Methodology)」と創造的な 近端 3. よいデザインの評価 ・FIESP での学生・デザイナー対象の誘演 ・テコーバ・ハバナでのデザイナー研修 ブログラム

11—16.明功遂行上の問題点 111.—7.問題附決を妨げる項囚	<b>非君人</b>	<b>薬粉を発展させる資金がほとんどなくデザインを生みだす十分な時間が与えられないこと。</b>	バッケージ・デザインが、見た目にされいなデザインというだけでなく、マーケティング、 阪保の低器として極格上低級なものとは評価されていない。 ロッの仕事の中で、プレゼンテーション・構造などを通じ、バッケーシの風吸性と、その方法結偽をどを通じ、バッケーシの風吸性と、その方法結倒をかけている。
II. ネコースの評価 II-1. JD III II-2. レ ベ ル III-3. 技術の適別度 III-4. 適用度が低い場合 その項由と改修算	4(ややほい) 2(やや易しい) 3(ある程度適用できる)	<ul> <li>(ガオぎる)</li> <li>(適当)</li> <li>(適当)</li> <li>(ある程度適用できる)</li> <li>(ある程度適用できる)</li> <li>(カラフィック・デザインのみであって、インダストリアル・デザイン分野の研修成果の適用は、フリーランサーとしての活動においてのみである。</li> </ul>	4(やや尽い) 3(適当) 4(かなり適用できる) バッケージ・デザインの限略上の役割に、より 近点を習く。
III ー 5、打造または 関助を 持った研修項目 2つ	非配入	a. 可修で使用できた資機材 b. デザイナー・オフィスの運営・経営手法 …産業との関連	a. デザイン・ワークの方法語 b. 日本の経過
IIIー6.身につけた技術を職務 送行に生かすには	非記入	複材はブラシルにはなく、研修から帰国した後、 必要としたものの多くを間に合わせに作った。	市場似のを通じ、パッケージがマーケティングの 武器として使われていること、ならびに製品を 個人の好みに低じ多様化したものにする必要性を 広く認識させることが重要。
III — 7., 18. - 明修旅行,见学の南足匹 - 低小場合の問題点と改卷案	4(かなり常足している)	5 (充分消足している)	4 と 5 の中間 実例と技術面についてもっと理解が必要
III — 9、今後の明後において - 有益と思われるデザイン分野	エンジニアリング志向とすべき。コースの中で デザインは「飾りつけ」仕事のように見なされて いた。	グラフィック、クラフトなど 私自身はフリーランサーと して行なっている インテリア・デザインに非常に興味がある。	今後プラジルにおいては、パッケージ・デザイン・グラフィックアート分野が高まることと思う。 また、現に不足している分野でもある。
'm-10. 今後のコース巡客に 役立つコメント	インダストリアル・デサインの祝点から、 エンジニアリング、マーケティング面をもっと 西やすべき	JBUのを延長し、1つでなく2~3のプロジェクトを行なえるようにする。 (インダストリアル・デザインの場合、プロトタイプ/モデル製作の収配まで行なう。)	グラフィックアート技術のコースを設ける。 ・材料確定技術 ・デザインの製成的プランニング ・デザインワークの方法論 ・企業・サブライヤー訪問。

IV. 希望するフォローアップ 事業	未記入	・文献・技術情報の送付 ・リフレッシュ・トレーニング ・ホコースの報告관を送ってほしい。	・文献・技術情報の送付 ・リフレッシュ・トレーニング ・実務でなく県略を枚えるコース
v. 和国邮件及阿思会括别符	朱杞人	同窓会はあるが活発でなく、あまりにも政治的なので退会した。活動は社交活動が主。 ホコース参加者とのコンタクトあり。	同窓会あり ・年に一回のディナー…その他の活動はよく わからない。 チリ、ブラジルよりの参加者とのコンタクトあり
.VI. 他国による研修コース等	4) hat's	ステギー包装印名所で、81年バッケーツコースにおだ(2M)…技法語からみたバッケーツ、石淬%の原語	参加セプ
Wi-1. デザインに対する関心	産業券:2(あまり関心はない) 一般の人々:2(あまり関心はない)	商 系 界:1~(同心を持ち始めた段階) :一般の人々:1~(同心を持ち始めた段階)	底 売 界:3 (ある程度関心がある) 一般の人":3 (ある程度関心がある)
m-2. 各企業のデザイン部等 の整備状況	未纪入	自社内ビデザイン耶器を持つ企業はほとんどない	Johnson & Johnson · Gossy lever · Nestleなどは、いずれもバッケージ・デザインの開発を持つ
Mー3.消災者別向における デザイン	消費者にとってデザインはきわめて折しいものである。	<b>砂も浴福な階層の少数だけがデザインに興味を持っているが、一般の人々は興味を持っていない</b>	デザインは不必要なもの、全計な費用と考えられてきた。デザインとで型料するための文化的価値観が存在しない。 社首的格達が翌しく、上層の人々のみがよいデザインを認める価値観を持っている
w4. 製品倫出とデザインの 関係	われわれデザイナーはブラシル製品の輸出の流れを (デザインをもって) どう支担できるかを示す 必更がある。	どちらが欠けても成立しない。	国内市場から輸出市場への以際的移行が進行中。
MI-5.デザイン協用の事(例 注制	<b>災念なことだが、ブラジルの法律は外国の製品を 保護していないため箇用は数多くある。</b>	路川の事例はない、注射はあるが、きわめて特定 的なものである。	ブラジルの小企業の多くは、大きな国際博覧会で 品物を買い、コピーあるいは修正して国内市場 向けにしている。協川に関する法律はない。企業 が自分のデザインを守るためだけに政府に登録を する気があればいいのだが…。
va. デザインの体制度 デザイン団体・協会等 1~3. 公的デザイン可能制度	なか	ない…設立の可能性もない	ない…可能の必要性は認められており、各州の 工業連盟が費用を負担する限りにおいて可能性は ある。
4、5. 民間デザイン研修制度	非記入	ない…知らない	ある…デザインの爪駅性、デザインワークの方法 銃、デザインの喉咙的ヴランニングに関する頃後
6. 民間デザイン根別開発 粗焼砂	NDI-Nucleo Desenho Industrial/FIESP 代数:Ms.JOYCE JOPPENT LEAL 全員になっている	未記入	NDI/FIESP (会員になっている)の他 Associacao Brazileira de Embalagem Rua Oscar Freire, 379, 16 andar-conj.161 Sao Paulo-Sr. インダストリアル・デザインの背及・振戦・研修

7. 民間アゲイン連合会 デザイナー協会等 「「「」」	未能入	<b>非記入</b>	Associacao dos Designers Graficos Rua Conego Eugenio Leite, 920, 520 Paulo-SP. デザインセン 伝収、コンクールの開催、研修の 実施など 会観「F.C. Embalagens」の発行
78. デザイン四発・保肌・技術文献	DESIGN A INTERLORES (月刊)  RAデ元: ADELIA BORGES/PROJETO EDITORES ASSOCIADOS LTDA. AVENIDA DR.ARMALDO 1947 01255-SP. インダストリアルデザイン、インテリアデザイン	GRAFICA (ゼ2か月) グラフィックデザイン如誌	design a interiores (BfU) symple
9. 以上各組版の活動への参加	赤起入	つな	・UNESCOのバッケーシデザイン研修のコンナルタントとして括別 ・キューバ・ハバナで輸出用バッケージのためのデザイナー向けコースの辺密(2か年実施・あと2年後く) ・国内では大学・デザイン団体にて1~2Wの短側の修り一スに協力
1日、 近 1	NS.CLAUDIA BRANDAO MATTOS 1981 パッケージデザインコース	MF.MAURO TORRES DE CARVALHO 1982 47774423-3	Nr. Mario narita 1984 Ast-styles-a
41 - 77 by 现。1 解		Technical Director/Owner, AXIS INDUSTRIA E COMENCIO DE MOBILLÍÁRIO LTDA, ME.	Director of Graphic Design Department, NPM PNOPAGANDA S.A.
-11 — 1. 現職と所は内容の 	デザイン・プロジェクト、アートワークの デザイン創造・開発・製作に関わってもり、日本 での可修はこれまでの活動の流れた、最も効果的 かつ有益であり、デザイナーとしての現在の楽物 にも密接に関連している。	小規模示其工場を保有・経営、学校用家具を開発・ ・製作、標準家具の遺産に係る州政府のコンサル タントとしても活動している。 また、リオ・プレト市サン・ホセで、家具工業 技術支援センター(NATIM) プロジェクトにも 1 PTと共同で参画している。	グラフィックデザイン[Q温のあらゆる仕事・パッケージ・デザイン、ラベル等の創作・マーク、ロゴタイプの創作・マーク、ロゴタイプの創作

バッケージ・デザイン分野において ・デザインコースの助手として学生を指導。 ・多くのセミナーに監及として参加 ・現在はオフィスで4名の助手を指導	・クライアントがデザイン・プロジェクトに其の 価値を置いていない ・デザインを理解するための文化が欠知している	1 (処すどろ) 2~3 (やや平別~適当) 5 (十分適用できる)	a. 日本のデザイン技術の高水堆 b. グラフィック・デザインの材料と方法論	消費者市場の発展は、産業間の放争を高め、結果 として他の産業の発展をもたらすはずだ。	1 (不満) . 急いで回りすぎである。もっと多くの訪問限会を 設けるべき。
建築大学(サントス、グァルロス、バウルなど) での精洗、 ブラシル内外の家具会社経営者対象のセミナー MATIW プロジェクトを推進	・ブラシルの宏丸分野は、学校で学ばず独学で住事を立えた技術者に支えられているため、その技術レベルは低い。技術を指導するコースが絶対的に不足しており、現在あるものについて政府の資金損助はない。 学校用家具の選定・流通を行なう公的規則のためスペック・ハンドブックを記したが、調弦研究所が不足しており、その効果的運用が妨げられた。計画段階にあるNATIM プロジェクトも州・連邦政府の資金援助が得られずまだに実践できない。	4 (やや長い) 3 (適当) 3 (ある程度適用できる) 非記入	a. 製品間発におけるグラフィック装現手法b. デザイン関発・製作現場の訪問	家具間発のための技術の智及が必要であり、複材 研究室等を適切に配置したセンターの設立が重要 だと思う。	3 (短掛)
プロダクト・デザイン、グラフィック・デザインを行なっているが、特にパッケーシデザインに 即転を持っており(インダストリアル、クラフト の面とも)、日本で学んだことはこの分野での私 の仕事を大きく何上させた。日本の研修成果は 1004役立っているといえる。 APDI(後述)というプロ・インダストリアル・ デザイナーの連合会において研修内容や日本の 文化などについて講覧した。	インダストリアルデザインは、たわめて新しいもので、多くの人々はデザイナーとその役割を正しく認識していない。クライアント・企業とデザイナーとの間の相互理解不足のため、円滑なコミュニケーションが困難。デザイナーの仕事が必要かつ時に 高くっくものであることを、クライアントに十分理解させるため勢力している	2(やや短い) 3(函当) 5(十分適用できる)	a. 日木のデザイナーによるプロジェクトの ケーススタディ b. 実習…実際のプロジェクトをIII乳する複会	日本で学んだことはデザイナーの楽務遂行のため にきわめて有効なもので、楽務計画の実行を容易 にした(方法銘とデザインの諸問題の解決のため の新たなアプローチの点で)。	2(やや不満) 研修旅行・兄学とも忙しく皮相的。島間先を茂ら し、各企業の役割、デザインの進め方について より弦く型解できるようにする。
11 — 2 ~ 4 . 研修成果の活用と死数の徴金	11 — 6、既務遂行上の同処点 11 — 7、同盟解決を妨げる延囚	111, 水コースの評価 111-1, 101 101 11-2, レベル 11-3, 技術の適用度 111-4, 適用度が低い場合	111 — 5.打造または 110以を 持った研修項目2つ	III — 6. 身とつりた技術を職務 送行に生かすには	III — 7、8、 研修林行・見字の得足匹 低い場合の問題点と改善系

III - 9、今後の団格において 右位と思われるデザイン分野 「近をよった。。	CAD/CG、バッケージ (グラフィックおよび容器) グラフィック (ロゴタイプ~システム旧発まで) イラスト技術、立体製作のための低工芸技術、 技丁・以木技術、シュエリーデザインなど	CAD/CG、インテリア、工業所有権、技術スペック パッケージなど	インダストリアル・デザイン、グラフィック、バッケージなど
元元ので今後のコース国的に    元元のではつコメント   アンので	今後どのような低類・広がりを持ったコースが できるかによる。	・ 英語の技術文献を増やす。 ・ 製品のブランニング段階から生産段階まで中間 ・ 過程を含め学ぶ。 ・ 研究機関訪問を充実させる。	バッケージを供給する企業・オフィスの訪問を 増やす。
W、布型ナるフォローアップ	・文献・技術情報の这付 ・技術指導 ・リフレッシュ・トレーニング	・文献・技術情報の送付 ・技術指導 ・リフレッシュ・トレーニング ・ 近材料の使用と製作技術に関する新コースの 設置!	・文献・技術術組(パッケージデザイン関連)の 这位
v. 加国研修负用混会括则等	ACTDJ-ASSOCIATION OF TECHNICAL COOPENATION BNAZIL/JAPAN 会合、路迩、セミナー、旅行、社交活助の変施 ポコース参加智とはときとき連絡を収っている。	同窓会はある。遠隔地に住んでいるので、行事の 案内状が送られても参加していない。	同窓会あり ・年に一回のディナー ブラシルよりの 1 名のみとのコンタクトあり
Vi. 他国による研修コース等	参加仕ず	イタリアで、B6年4月UNIDO・イタリアバッケージ 団体によるバッケージ技術の研修に参加	李加也子
W-1. デザインに対する限心	産 業 界:4 (かなり関心がある) 一般の人々:2 (あまり関心はない)	産 非 界:3 (ある程度関心がある) 一般の人々:3 (ある程度関心がある)	産 非 界:3 (ある程度関心がある) 一般の人々:未記入
Mー2. 各企業のデザイン邸塔の整備状況	多くの企業はデザイン印筆を持たず、デザイン オフィスや個人デザイナーを活用している。数年 前にデザイン印写を設立した企業もある。 (CANTAO, VILLANES, COSIPA, WHITE WANTINS, SOUZA-GRUZなど)。	大企業のみ (全企業数の53未得) がデザイン即窓を持つ。外国のデザインを許可を得て家具製作に用いているケースもあるが多くの中小企業の最も智通のやり方は洗れている製品をそのままコピーすることである。	Nesticはバッケージ・デザイン部窓を持つ。虹段なデザイン・プロジェクトは関々のデザイン・スタジオと共同で行なわれている。
VIIー3. 消災者助向における。 デザイン	インダストリアル・デザイン(特に製品の企画・ 同窓)はブラシルでは歴史が強く、社会の総裁、 評価なっなに支持ともに信く、政府も同窓や 思める上でのデザインの国政性を認識していると は思われない。一般にデザインは、スタイリング やステイタスと結びつけに考えられてもり、宣伝 はこう した面に面点が留かれている。よい デザインであるがゆえに製品を購入する流致治は てく少数である。	ブラジルが現在立面している経済財政危機のために、消犯者に消足を与えることは国別になっている。 似能・形状の面での品質は、近上を而めるための基本的な要素である。	プラシルは抗しい国で、其の消費者と呼べる者は 人口の約4%のみで、さらにそのうちの1割(全人口の0・4%)だけがデザインの意味を理解できる。
, 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	~		

<b>倫出のためには、倫送、デザイン、文化、パッケージなど全ての点を考慮に入れるべき。</b>	インダストリアル・デザインでは多くの事例がある (主にスーパーの消費者向け製品). ブラシルで協用に関する法律については聞いたことがない。	未記入	なか	末記入	グラフィックデザイン連合会 会員:50名代版 会員になるうと思う。	DESIGN & INTENIORES (月刊) 非机的法	<b>非記入</b>
ブラジルの奈具の倫出はほとんどない。その理由は、低い技術レベル、非熟徒労励者、デザインの 虹要性こいての認識が欠如していることなど。これらが解決すれば、国内の恵まれた原材科ともあいまって倫出促進につながるだろう。	中小企業は、たいていよく売れている両品をコピーしている。工業所有権を保護する法律はあるが 近守されない。	ない…枚音子算はほとんどすべて初等教育で使われている。 衙題を消たす技術コースはほとんどない。 民間資金で運営されているものは基本的な指導にとまっている。 中等、大学レベルを対象の教師が不足ないしは欠如しており、 国際的な協力が必要とされる。	ない…知らない	同左(会員になっている)	ADISP-Associacao de Desenho industrial de Sao Paulo (インダストリアルデザイン協会) 代表: Mr.MISON DE OLIVEIRA (会員) 会員: 5 0 0名	<b>非記入</b>	、86年4月ポリヴィア・サンタクルスにて経営者を対象に家具分野の研修を実施した。 ・製品開発 ・グラフィーク裁別技術 ・エルゴノミック・ニーズ ・包装の重要性
政府は恰出のためのデザインの国政性に気づいておらず、また原因心であって、デザイン・プロジェクトに対して一切の支担を行なっていない。	<b>ブラジルのデザイナー間では箇用はない、外国のデザインがしばしば取り入れられ、ブラジルのデザインは外国以品に似たものになっている。しかし、これがどの程度で適用とみなされるかわからない。</b>	インダストリアルデザイン研究所(LANDIATORIES OF INDUSTRIAL DESIGN(1 M)5~20名 サンタカタリナ州、ベルナンプコ州…それぞれに 異なるコースを行なっている。他の州や国々から も路回を招き、各州立大学にて原回されている。	なか	FIEST/CIFSP/DETEC 代表: Mrs.10YCE JOPPENT LEAL ・インダストリアルデザイン材積の収集・管理 ・デザイン区国路湾・セミナーの即催 会報「Di」路月刊	APDIープロ・インダストリアルデザイナー組合会リキで約300名のデザイナーが加盟、他シン・パウロ、ミナスジェラス、ベルナンブコ、リキ・グランデ・ド・スルにもある。 (会員) (校表: Mr.TULIO MARIANTE・結故・セミナー国営・広報話・サンナー国営・広報話・サンド・ラジャ)	GRAFICA ブラシル、外国のグラフィックデザイン紀介	APDIの2 事業の運営委員会に所属、同会もよび大学の構造・コース・セミナーの実話に協力。・
≒ - 4. 製品倫出とデザインの 関係。	M – 5. デザイン協用の事例 法則	M. ガサイン研修制度 デサイン団体・協会等 I ~3. 公的デナイン団体制度	4、5. 民間デシイン県会制度	6. 民間デザイン協関開発 信は等	7. 凤間デザイン連合会 デザイナー協会等	9. デザイン開発・振興・技術 文献	9. 以上各組織の活動への移加

JI B	MS.MANISTELA MITSUKO ONO	調の
1-7 b. 规 赋	1) Teacher of Industrial Design Department. Centro Federal de Educacao Tecnologica do Parana 2) Associated Manager, Amigo Fabrica de Brinquedos educativos LTDA. (\$\$\forall \text{TM} \forall \forall \text{TM} \f	チリの福国の体員は、いずれもチリ・カトリック大学からお加しており現在でも同じ頃にとどまっている。 ブラシルの福国研修員は、フリーランサー、あるいは自らデザイン・オフィスを聞いたり、会社経営に抜わるなど、民間レベルで多様なデザイン活動を展開している。
元,13   現職と可修内容の 	インダストリアルデザイン(1D)技術コースの体制:内容の再編成を担当、また日末での経路にったて精液を行なっている。以出回窓の分野でも活動している。	現職が必ずしも日末での研修内容と直接関連しない者もいるが、日末での研修について、福国後の 素類ならびに現在の業務においても役立っていると評価する者が多かった。
11-2~4. 町修成駅の西川と死扱の概会	デザイン川記の新しい方法を経验することができ、企業・オフィスの訪問により、 10の効果的な利用を推進するにはどうしたら よいかを学ぶことができた。牧師として、諸弦や 頃修コースの実結を通じ、日本でのこうした経験	大学等での結嵌や、デザイナー、企業経営者、デサイン教育者などを対象とするセミナー・明修コース等を通じ、直接日本での呼ば内容・研修成果を発表した者もいれば、日本での程数を踏まえ、日常の業務において、あるいはデザイン関連雑誌等への毎項により、デザインの国要性を社会に広く理解させるべく努力しているという者もいた。
11 — 6、 財務選行上の問題点 11 — 7. 問題が決を妨げる延因	・1 D 枚育において、新しいやり方を受入れない 校回がいる。 ・ブラジル社会の大部分は、1 Dの機能について まだ理解していない。 ・国内にデザイン振興のための効果的な団体が ない。 校師グループとの忍耐強い話し合いを通じ、1 D 研修ゴースの体制内容の改辞に努力している。	チリ、ブラシルとも国内のデザインに対する認拗が低く、デザイナー、ねよびデザイン活動に対して 正当な評価が与えられていないことをほとんどの助移員が開始点としてがげていた。 また、大学をはじめとする教育機関もよびその学生、デザインを必要としはじめた製造楽等の民間 企業、そして個々のデザイナーならびにデザイン・オフィスの相互の連携・指領交換が、 (1) それぞれのグループ内に強固で機能的な適合体が存在しない (2) 各グループ間を構蔵しするのに必要なノラハウ・機能を値えた適切な機関が存在せず、中央・ 地方の政府とも、そうした機関の設立の必要性を十分判解するに至っていない などの理由により等しく欠如している。
、 本コースの評価。     - 1	2(やや短い) 3(適当) 5(十分適用できる)	1(短すどろ)~4(やや長い)と回答が分かれたが、似わ適当との評価と考える。 似わ適当との評価を得た。 災職が研修内容と若干界なることから、2(少しだけ適用できる)とした者もいたが、その他は3~ 5と適用度を評価している。
III 5、打造または現珠を ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	a、以品加死の手法	日本のデザインの先進技術とともに、デザインワークの基礎となる「方法語(Nethodology)」や、 民間を指導する政府のデザイン振興政策、各企業の製品間発の手法の紹介、デザイン・オフィス、 企業訪問等が高く評価された。
III-6. 身につけた技術を戦路 送行に生かすには	1.Dに関わる辺脉の路密化、企業・地域と学生) 製品開発に役立てられる方法を収靠する。	11 — 6、7 で述べた問題点の解決策を複称している各人の苦労がうかがえた。
The state of the s	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	4

III — 7、8. 町砂林行・見学の得足度 低い場合の問題点と改辞案	4(かなり消足している)	忙しい旅行スケジュールや、目的・焦点がはっきりしないデザイン・オフィスや企業の訪問・児学などを指摘する声もあり、訪問先・時間配分の決定にあたっては、それぞれの目的、伝えるべき情報・知識などについて十分考慮する必要がある。
III - 9. 今後の研修において 石造と思われるデザイン分野	<b>以以デザイン、工業所有権、交通</b>	CAD/CG、グラフィック・デザインなど前たな分野のコース設定の角型があったが、現在の3つの分野の再評価とも合わせ、寄せられた要型を均頂に検討する必要がある。
-10. 今後のコース運営に 役立つコメント	デザイン・プロジェクトに充てられる時間が 短かった。	コース内容の大幅な改組から、現在の体制で十分対応可能な促災まで、いずれも有益なコメントが寄せられた。
IV. 布盤するフォローアップ 事業	・文献・技術情報の这付 ・ガフレッシュ・トレーニング ・1 ロの字校(体制・牧町内容)に関する情報 ・ な好分野川の製品別記を行なう企業の情報	デザイン分野の文献・技術情報の送付、技術指導、リフレッシュ・トレーニングなどの希望の他、 デザイン開発に必要な极材の供与、デザイン・プロジェクトの共同研究開発など多岐にわたる更望が 出された。
v. 加国时任任同款会占到许	サン・パウロに同窓会があるのを他の可修員から 聞いた。 ポコース参加の研修員とは連絡を取り合っている	チリ、ブラジルとも同窓会活動は活発に行なわれており、ポコースの参加者同士も国内、国外を 問わず何らかの形で週籍を収り合っている者が多かった。
VI. 他国による研修コース等	西班 '80.10.1~'89.2.15 Fachhoch-schule Nunchen の1 D研修コース 学校・企業の1 D研発訪問	回答者10名中、半数の5名が日本での研修の後、外国での切勝、研究活動等に参加している。
MI-1. デザインに対する関心	<u> 麻 菜 昇:2(あまり関心はない)</u> 一般の人々:2(あまり関心はない)	チリ、ブラジルを問わず、茂茶界、一般の人々ともにデザインに対し、ある程度の限心を示し始めてはいるが、デザイナーおよびデザインの瓜萸性を正しく理解するに至っていない。
MI-2、各企業のデザイン配置 、の整備状況	ALLADIN, WALLITA, PROSDOCINOといった企業はデザイン邸姿を備えている。	チリは、民間企業がようやくデザインの必要性を認識し始めた段階にあり、自社内にデザイン関連の 部署を備えた企業は、ほぼ世順である。これに対し、ブラジルでは大企業を中心としてデザイン関連 の邸案を備えた企業も現われてはいるが、中小企業の多くは、個々のデザイナー、デザイン・ オフィスとの契約によって自らのデザイン業務を行なっている。
MI-3. 消段名別向における デザイン	ブラジルの人々の大部分は、デザインを肌なる 技術物と考えており、「人ともの」、「人と労助 条件」、「人と安らゼ」といった関係における デザインの役割を末だに理解していない。	チリの消費者は、外国製品のコピーが記憶している現状をそれほど逐遊しておらず、国内の流行は 外国より大きく影響を受けている。 ブラジルでは、国民の経済的格差が等しく、消費者の中でも上層のごく少数のみが製品のデザイン そのものに価値を認めている。また、デザインを型降するための文化的価値観が欠如しているとの声 もあった。
MI - 4. 以岳倫出とデザインの   以係	<b>版近倫出されている製品の多くはダーゲットとする社会の文化をほとんど考慮に入れていない。</b>	チリではこれまで展産物、塩産物などの一次産品倫出に休有してきたが、既用倫出を採明する助もが 高まるにつれて、製品のパッケージ・デザインの虹吸性が認識され始めてきた。 これに対しブラジルでは、これまでの国内市場志向に代えて、国際市場に向けての製品削発に あたって、デザイン肌発が必要かつ不可欠なものとなってきた。 しかし、いずれの国においても、政府のデザイン採則政策は、非だにほぼ皆無の状態にある。

로 명 - 국 · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	M - 5. デナイン協用の当例 流動 M. デナイン団体制度 1 - 3. 公的デナイン研修制度 4 : 5. 民間デナイン研修制度 6. 民間デナイン研修制度 7. 民間デナイン協会等 2. 元間デナイン研修制度 7. 民間デナイン協会等 2. 元間デナイン協会会 2. 元間デナイン協会会	国内のデザイン・コンペで女を受けた窓庭用の いかりがあるが、これは外国製品のコピーで ある。C1、製品等に信託を与える国の複似は あるが、国内には今も多くの問題を抱えている。 ない…以所予算により、国内・国外のデザイナー が、世界中のデザイン規則団体、デザイン協会と 協力して設立すればそうした制度は可能である。 CADI (サン・パウロ) 費用は参加者負担(6 M) 表別手法、エルゴノミクス、CGデザインなど 非配入 ESCOLA DE DESENIO INDUSTRIAL、UFRJ- ESCOLA DE DELÀS ARTES, 21941 CIDADE UNIVERSITARIA / PREDIO DA DEITORIA	チリ、ブラジルともデザインの箇用、コピーが記憶しており、それに対する法的規制も実動を上げていない。 チリ、ブラジルともデザインの箇用、コピーが記憶しており、それに対する法的規制も実動を上げているい。 チリ、ブラジルともMー4、で述べた通り、デザイン協制に対する政府レベルでの認識が欠加していることから、適切な公的なデザイン研修制度は存在せず、おずかに大学等の公的教育機関で寄手の研修コースが行なわれているのみである。 民間のデザイン研修制度については、確実な情報を得られなかった。 チリには、デザイン研修制度については、確実な情報を得られなかった。 チリには、デザイン研修を任ういては、政策な情報を得られなかった。 チリには、デザイン研修を生かして、デザイン(2004)では、インダストリアルデザインセンター) が、直然界とのつながりを生かして、デザイン(2004)では、インダストリアルデザイン・デザイナー間の情報 支援の支援などの法がに行力的に取り組んでいる。 チリではNiss Longto が所属するブロ・デザイナー協会があるのみであるが、直発界・政府に対し 影響力を持つには程度い状況である。 ブラジルには、グラフィックデザイン、インダストリアルデザイン、デザインと教育等の分野で、地技 に応じ、デザイン団体が複数存在する。
ο̈	デザイン開発・境限・技術文庫	SALA 624 代表: ur.ceiso guiwaraes (和務局長) デザイン教育分野に称わる人々の協会 (会員) ・デザイン教育[知過の会合のDNII DESIGN & INTERIORES (月刊) 舒和前途	チリでは月刊の工業関連誌にデザイン関連のページが設りられている他、プロ・デザイナー協会が 発行するグラフィックデザイン誌、および昨年創刊された包装技術関連誌に、バッケージデザイン アラジルでは、全デザイン分野に開かれた、デザイン一般・インテリア誌と、グラフィック専門の 隔月刊の雑誌が発行されている。
<u>चं स्त्रं</u>	以上各組隊の活動への参加 製品を介護された。	ABEDのメンバーとしてデザイン校育に関する全国会職に出席したごとがある。	<b>各人が所属するデザイナー協会・デザイン団体が実施する各価の活別(セミナー・諸領)等への参加や、数関係・会領の提供協力などを行なっている。また個人レベルでも、福広いデザイン活動を展開している。</b>

# 4. 研修取扱窓口機関等における調査結果

# (1) チリ

JICAチリ事務所に送付された本コースのGIは、チリ側研修窓口である 国家企画庁(ODEPLAN)国際技術協力部に送られ、大学等の関係機関に 配布される。候補者はODEPLANの選考を経た後JICAチリ事務所を 通じ要請される。

しかしながら、昭和61年度以降チリは本コースの割当国となっていない。 当然のごとながら、ごれはチリ側より提出される毎年の集団コースへの要望 調査において本コースの優先順位が相対的に低いことの帰結である。この点に ついて、ODEPLANの国際技術協力部 AMEZAGA部長より、来年度以降の 要望調査に際し、特に配慮したい旨のコメントがあった。

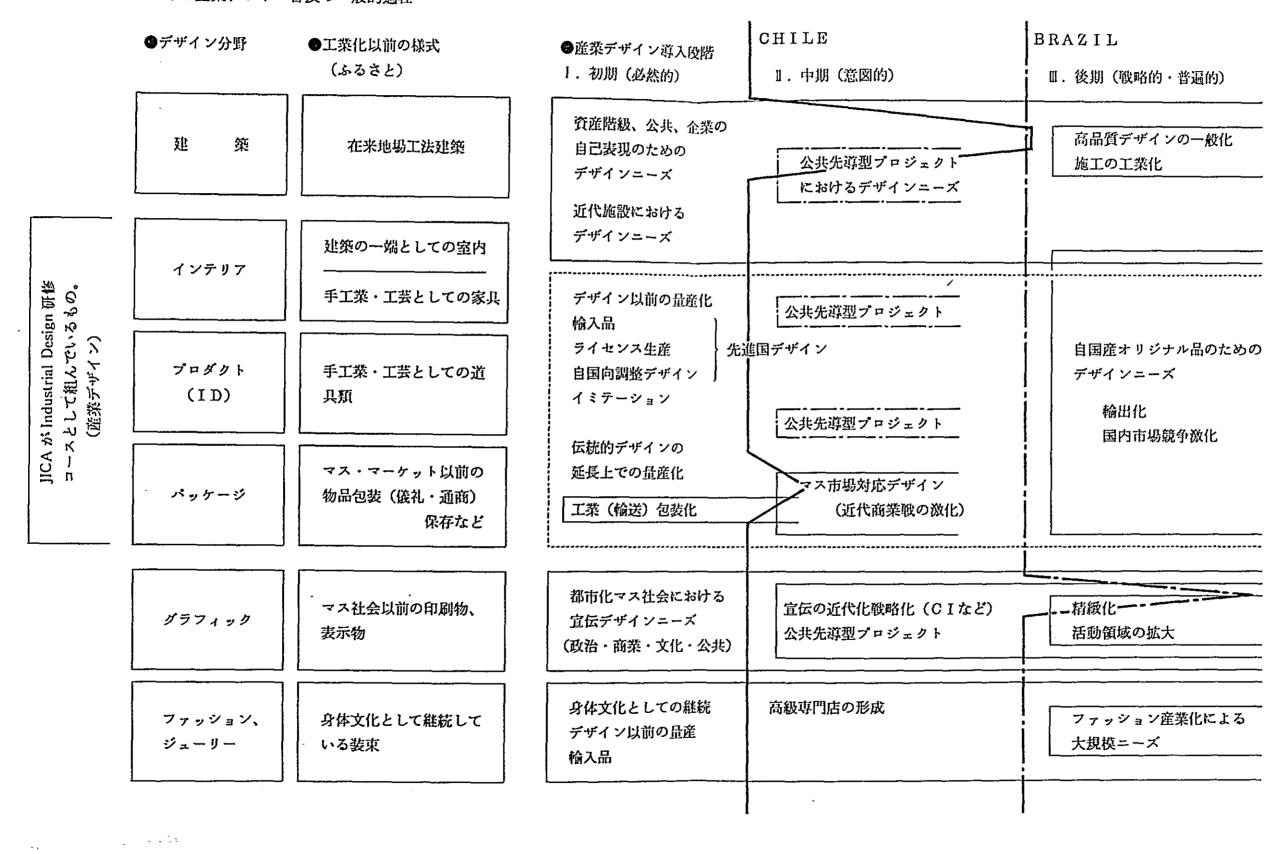
# (2) ブラジル

同国においては、JICAのステータスが認められていないため、本部よりJICAブラジル事務所に送付された本コースのGIは、在ブラジル日本国大使館からブラジル側研修窓口である外務省の科学・技術・テクノロジー協力局の研修課(DFTR)に送られる。これと並行して他の事務所・支所へ送付されたGIは、各地の総領事館から州・地域レベルの試験研究機関へという非公式ルートを通じて事前送付される。本チームはブラジリアを訪問しておらず、直接DFTR関係者との面談はできなかったが、サン・パウロ事務所およびIPT関係者より聴取したところによれば、DFTRからのGIの国内各機関への配布・応募勧奨などは、しばしば著しく遅く、締切に間に合わないこともあるとのこと。

したがって、締切に間に合うようにコースの広報・候補者の募集・選考を行ううえで、上記の非公式ルートは公式ルートを補う重要な役割を果している。 さらに、サン・パウロに関していえば、本部からの受入通知の伝達に際しては 事務所からブラジル側の各機関に通知される非公式の受入通知が、事実上唯一の連絡として機能しており、たとえ来日指定日の1か月以上前に本部からブラジル事務所に通知されても、本人が離伯するまでにDFTRからの通知は 行われないとのこと。

当方としては、同国内の機構・連絡体制による応募手続の遅れについては、 これを回避する手段を提言する立場にないが、GIの送付を可及的速やかに 行うべく努力したい。

- 5. チリ・ブラジル両国のデザイン事情
- 5.1.途上国における産業デザイン普及の一般的過程



	:		
	•		

### 5. 2. チリの産業デザイン事情

2-1. 産業デザイン 普及の状況 総じて、前途の段階 I. 初期にある。 それも、静かだといえる。

2-2. デザイン・ビジネス機会

極度に少ない。

帰国研修員の4名中3名はカトリック大デザイン科の教師である。

2-3. 研修成果の社会的浸透

上記 2-1, 2-2 の理由により、産業界一般への浸透は未成である。ただし、2-6 に後述する動きが現れている。

また、帰国研修員各自における経験と向上には十分に寄与しているといえる。

2-4. デザイン教育事情

工科系の建築は別として、グラフィックにわたっての産業デザイン教育は 数校にとどまっている。

うち、訪問した2校について、

(1) キリスト教大学

UNIVERSIAD CATOLICA DECHILE ESCUELA de DISENO

- ・学生約50名(学年当り)(資格取得卒業生は年10名程度)
- ・女子学生が多いとのこと。
- ・卒業後の就職先はほとんど無い。
- ・デザインコースは女性教養コースとの認識があり、なげかわしいと の言。
- (2) COLEGIO de Diseñadres Profesionales de Chile
  - ・チリ大学のデザインコースが縮小後、教師陣が移ってデザインコー スができた。
  - ・わが国の各種学校に当るか。
- 2-5. 自己再生産にとどまっているデザイン

上記 2-3, 2-4 でも分るように、産業デザイナーの社会的拡充は未だ見られない。

デザイン教師たちは実務経験に欠けるため、極めて理論的かつ主知的である。デザインの具体的普及に関する活動方法、運動方法についても経験不足。

2-6. デザイン普及の萌芽

パッケージにおいては、マス市場を意識してのデザイン導入 (第Ⅱ段階化) の気運が見られる。

これは、漁業を中心とする2次産品化、輸出化の産業課題も要因となっている。

また、帰国研修員 Maria Loreto による "VAS——Revista del Envase y Embalaje" 誌上に連載執筆 "Marketing y Disnõ" なども啓蒙に寄与してい る。

Maria 他帰国研修員は "INDUSTRIA" 誌にもデザイン紹介ページを獲得して、毎号、啓蒙記事を執筆している。

これら、デザイナー側からの産業界向け働きかけに加えて、産業行政側である ODEPLAN (企画庁) の、わけても技術協力部長の Enrigue Amezaga 氏ほかの理解も加わり、産業界は次第にデザインに目を向けはじめているようだ。

2-7. 重点とすべきデザイン分野

そして、実践(戦)を知るための研修機会として。

チリにおいては、当面はパッケージに対するニーズが高まるであろう。研修参加も、チリに対してはパッケージコースへの参加を優先配慮すべきと 考える。

2-8. ODEPLAN との緊密な連係

Enrique Amezaga氏はデザイン振興を大所から、また広範かつ公平に見ていると思えた。研修員の募集と選抜に関して、今後の問いかけ先として評価したい機関・人物である。

- 5.3.ブラジルの産業デザイン事情
  - 3-1. 産業デザイン普及の状況 総じて、前途の段階 I、 I、 II が混在している。 それも、にぎやかである。
  - 3-2. デザイン・ビジネス機会

産業界全体としてのデザイン理解度、導入意欲はまだ低いと聞いたが、と らえようによっては高く、特に民間大手(外資系も含む)では積極的のよ うだ。

面接した帰国研修員のそれぞれは、民間にあってそれぞれの容態でデザイン・ビジネスを実践していた。

それぞれのデザイン力量、ビジネス的才覚、性格などによってさまざまで あった。

(1) 大型デザイン事務所として成功

リオのRenato Gomes 氏

社員約50名の DIA DESIGN の幹部

サンパウロ市にも10名近いブランチを運営

外資系企業を含むクライアントを保有

ID、パッケージ、店舗、CI、広告キャンペーンなどのデザインを展開売上も悪くない様子

(2) 大手広告会社の制作室で活躍 (MPM) ·

サン・パウロの Mario Narita 氏

7名ほどのスタッフで、質の高い広告デザインを制作している。

広告会社の一部門なので、経営の心配はない。

へいずれ、子会社独立の可能性もあるという。

(3) 国際的ネットのなかのデザイン事務所 Benchmark サン・パウロの Luiz Roberto Farina 氏

米国系資本と自己資本で経営

サン・パウロに約10名のオフィス

ジョンソン&ジョンソン等、主として米資系会社のパッケージ他、総合的にデザイン・サービスを提供。

仕事の質を保つため、端物の注文はことわっているとのこと。

経営も順調だという。

2~3年に一度は来日(デザイン調査のため)。

(4) 地方で地道な活動

サンパウロ州 Marilia の Mauto Torres de Carvalho 氏

家具工場 AXIS を自営

奥地向け学校家具などをデザイン・製造・販売

行政と組んでも組織や人事の変更が頻繁で困るとのこと。

(5) 個人でビジネス

リオの Claudia Mattos さん

5つほどのデザイン小集団(各 $1\sim3$ 名)がひとつのハウスを借りて、ゆるい連合で共同している。

Claudia さん自身の仕事は小規模のものが多い。

パッケージ、クリスマスカードなど。

リオの Fernando Coimbra Bueno 氏

2名の仲間と小アトリエを運営

教会や文化事業のポスターをデザイン

収入はきびしいという。

リオの Sandra Smith さん

個人のセンスを生かして活動。グラフィックが主。

(1) の Renato の事務所のクライアントのひとつからも仕事を受けている。

以上のごとくさまざまであり、わが国とも変るところがない。

2-3. 研修成果の社会的浸透

上述のごとく、それぞれ成功度合はちがうとはいえ、実務を通して浸透している。

研修が役立ち、功を奏しているという者は多い。

2-4、デザイン教育事情

リオ・デ・ジャネイロ市において2校を訪問。

学校の通例として、やや理論偏重となるのは止むを得ない。

教師に実務経験がないため、技術教育軽視の感あり。

サン・パウロと同様、デザイン学卒者の就職先はきわめて少ないとのこと。 新卒デザイナーを顧用して育成しようという企業はなく、有経験者を求め たがるという。 一方、新人デザイナーの登竜門となるコンペティションがなく、新人は入口をふさがれている。

デザイン普及のためのひとつには、新人登場のシステムが社会的に用意されなければならない。

#### 2-5. デザイン振興活動

インダストリーの多くはサン・パウロに集中している。 次いでリオとなる。

産業デザイン振興の具体的なものは、州レベルで行われている。 サン・パウロ州は活発である。

#### (1) FIESP

Federação das Indústrias do Estado de São Paulo 翼下に119組合(業界)を収め、会費によって運営。 民間であるため政変にかかわらず活動を継続できる。

前記第Ⅱ段階 (オリジナル製品化) を目ざして、デザインの振興意欲は高い。

ただし、デザイン振興はFIESPの活動の一部であり、また専従知識に 欠けているため、デザイン振興のポイントがいまひとつつかめていない。

また、在野のデザイナーの活動や実態を十分に把握していない感がある。

そのため、デザイナーの側も、FIESP に対する関心はいまひとつない。

一方、デザイナー側にもまとまった協会がないため、両者は組織的対応をとり合えないでいる。

とはいえ、FIESPは、サン・パウロ州において最も公平かつ広範囲な 機関であるため、また、これまでのサン・パウロ選抜の研修員は同機 関のコンサルタントとして研修参加しているため、サン・パウロ州に 関しての

- ・研修等情報の送り先機関として、また
- ・今後の産業デザイン振興機関として

評価できる。

#### (2) ITP

Instituto de Pesquisas Tecnologicas do Estado de São Paulo S.A. 州レベルの工業技術院と解せばよいか。

その木材技術部門では、近在(南部)の木材利用開発研究をすすめていた。

その利用開発のひとつとして、オフィス家具をプロジェクトにしていた。

そのデザインは商品にほど遠く、技術志向によるシステムデザインの範囲にとどまるものであった。

技術者が生半かにデザインすることはかえってよくない。 造形の専門家であるデザイナーとの協同の道をひらくべきである。

- (3) リオ・デ・ジャネイロ 振興機関とのコンタクトはとれなかった (情報不足)。 また、これというべきデザイン協会はなかった (産業デザインに関し)。
- 3-6. 産業デザイン、特にプロダクト (ID) の導入をはばむインフレー時より沈静化したとはいえ、インフレは、新製品開発における原価設定、回収計画をずたずたにするため、各企業とも新製品開発の意欲は低い。ここに、根本的な問題をかかえている。
- 5.4. 両国デザイン事情からみた研修コースの評価
  - 4-1. 大筋において良いといえる。
    - (1) 帰国研修員各人にとって役立っている。
    - (2) 各人は帰国後、各人なりの指導性や刺戟力を発揮している。
    - (3) 3 コースとも、大枠テーマのもとに各人に課題を設定できる方式を採っていることは、各人の国情に合わせられるため、適切である。
    - (4) 期間についても、現在の方式のもとでは適切である。

#### 4-2. 留意事項

(1) 帰国研修員が帰国後発揮する影響力は、いうまでもなく研修員各人の能力にかかっている。

研修員の一次的選定は相手国に依存せざるを得ないが、なお当方側で 行う二次選定においてデザイン能力を判断するために、今後は、簡単 なポートフォリオを提出してもらうとよい。

- ※相手国においてデザイン・レベルの低い人材に対しレベルアップを 図るより、優れた人材をより高めることを方針とすることによって、 波及効果は大きくなる。
- (2) 今後は、デザイナー(技術者)と、振興事業従事者とのコース分離 (後者を新設)して、各コースをさらに目的々にする必要が生じるで あろう。
- (3) 別途の援助協力事業として、デザイン使節団派遣による、相手国の産業人、振興事業者をも対象とした大型で集中的なセミナーの開催が必要とされる。
  - ※これまで東南アジアで行ってきたもの。 相手国内に、より広範囲で総合的な認識を起せる。
- (4) 現在の研修コースで、特にインテリアについては、これまでのようにインテリア製品中心のカリキュラムを続行すべきである。
- (5) 今後は、デザイン事務所・企業におけるデザイン部門の経営・運営についてのカリキュラムを加味していくとよい。

## 4-3. その他に要望されたことと応答

(1) 3コースのそれぞれを毎年開いて欲しい (サン・パウロ)。

- →予算、受入れデザイン団体はギブ・アップする。不可能。
- (2) このコースをブラジルで開いて欲しい(リオ)。 →研修員が日本にて見聞を広げることに価値あり。 誌師陣も日本国内でこそ多彩に配置できる。
- (3) コンピュータを援助して欲しい (チリ、キリスト教大)。 →本デザイン研修コースの枠外にある要求のため、聞きおくにとどめ た。
- (4) 研修員の受け入れ人数を増やして欲しい (チリ、ブラジル)。 →事情を説明
- (5) グラフィック・デザインのコースを新設してほしい (サン・パウロ)。 →コース内容など問題は多い。 聞きおくにとどめた。
- (6) コンピュータ・デザインのコースを設けて欲しい (サン・パウロ)。 →それ以前の階段におけるデザイン導入が先決ではないか。 聞きおく にとどめた。
- (7) デザイン・マネジメントのコースを設けて欲しい (サン・パウロ)。
   →(6)に同じ。
   ただし、基本的理解をうながすために、4-2の(2)、(3)、(5)で述べた対応方法がある。

以上

#### III. まとめ

今回のチリ、ブラジル2か国のフォローアップ調査を通じ、各帰国研修員が現在の 業務において日本での研修成果を活かし、さまざまなデザイン活動を展開している ことを確認した。また、各国の今後の本研修コース参加への希望はきわめて高く、 とりわけチリは、現在本コースの割当国となっていないこともあり、今後強い要望が 寄せられるものと思われる。

今回の調査結果の中で特に注目すべき点は、名帰国研修員に対する質問表の回答からも得られた以下の6つの点に集約される。

- 1. 産業界・一般の人々ともにデザインに対する認識がまだまだ低く、デザイナーの業務は正当な評価を与えられていない。
- 2. 政府レベルにおいては、製品輸出振興のためのデザインの重要性は、いまだに 十分認識されていないばかりか、デザイン振興のために機能している公的機関は チリでは存在せず、ブラジルでは州政府レベルに1つだけあるが、デザイナー、 産業界に対し影響力を及ぼすには至っていない。
- 3. チリではピノチェト大統領の軍政から民主化への移行過程にあり、一方ブラジルは、現サルネイ大統領の任期切れを来年3月に控えており、また恒常的に高い物価上昇率を抱えている。このように政治的・経済的に不安定な状態は、国民の政府に対する信頼を損なうだけでなく、企業内の新規投資・新製品開発の意欲を減退させ、帰国研修員のデザイン活動にも少なからぬ影響を及ぼしている。
- 4. 大学等の教育機関、製造業を主とする民間企業ならびにクライアント、および個々のデザイナー・デザインオフィスの相互の連携体制が欠如しており情報交換の機会が不足している。
- 5. デザイナーの協会など、デザイナー間の結束は少しずつ高まってきたものの、 産業界への働きかけの点で、十分に機能しているデザイン団体は稀である。
- 6. 外国のデザインのコピーは広範にみられるが、それほど問題にされておらず、 デザイン盗用について、今のところ大きな問題は発生していない。

以上の結果を踏まえ、今後のコース運営に際し考慮すべき点は、以下の通りであると考える。

- ・参加研修員の国々と、日本とでは、政府(公的部門)と民間(産業界および デザイナー)との間の関係が大きく異なることも考えられ、日本のデザイン振興 政策の紹介にあたっては、なお一層の配慮が求められる。
- ・デザイナーを対象にデザイン技術・手法およびその考え方を指導する現在の研修 コースの他に、輸出促進のためのデザイン振興に携わる行政官を対象とした、 デザイン行政コースの設置についても検討の必要がある。
- ・大学等の教育機関において、デザイン教育に携わる教師・教授等の本コースへの参加は、帰国後の研修成果の波及効果が期待できる一方で、産業界とのつながりが稀薄な国においては、ともすると、研修成果の普及が大学内での教育課程の中の学問としてのデザイン教育に終わる可能性もあり、背反する2つの側面を含んでいる。

最後に、今回のフォローアップ調査を終えた印象としては、インダストリアル・デザインという研修科目から考えて、このフォローアップチームは、通常型でなく公開型での派遣が有効であったと思われる。各地で開催した技術セミナーにおいても視覚的な手段によって考え方を伝えることができるという点で、他の技術分野に比べセミナーの効果は著しく、より深く長時間にわたって講義・ディスカッションを行いたかったとする意見も多かった。したがって、今後の本コースに係るフォローアップチームの派遣にあたっては、公開技術セミナー形式での実施を考慮願いたい。

#### 別添 1. サマリーレポート (チリ)

# FOLLOW-UP TEAM FOR EX-PARTICIPANTS IN THE GROUP TRAINING COURSE IN INDUSTRIAL DESIGN

i.Background: On behalf of the Government of Japan, Japan International Cooperation Agency
(JICA) has been organizing the Group Training Course on Industrial Design
and has received participants from developing countries.

The programme has a duration of about two months and a half in general. Participants are designers in various fields, lecturers and instructors on design with more than five years' practical experience in the field of industrial design.

The purpose of this course is to introduce the development process of industrial design and its techniques, and thereby contribute to the improvement of industrial design for industrial/export promotion.

By the end of 1988, JICA had accepted 100 participants to the course from 22 countries and 1 region (Hong Kong).

- 2.Objectives: With this background, JICA dispatched a Follow-up Team to Chile and Brazil for the following objectives:
  - (1) to evaluate the extent of utilization of what the ex-participants learnt through the course,
  - (2) to identify problems/needs they may now have in their daily execution of work,
  - (3) to investigate and understand the present situation on industrial design in each country, in order to improve the future programming of this course.
  - (4) to get information on the nomination procedures and qualification in order to make them more efficient and appropriate in collaboration with related organizations.
  - (5) to hold a Seminar on Design Promotion Policy in Japan and introduce the present situation on design.
- 3. Period: From July 19, 1989 to August 7, 1989
- 4. Hembers: (1) Mr. Shuya KANEKO (Leader of the Team)
  Vice President, GK Graphic Associates
  - (2) Hrs. Keiko TAKAHAGI (Hember: Design Promotion Policy)
    Chief, Design Promotion Office,
    International Trade Administration Bureau,
    Kinistry of International Trade and Industry (KITI)
  - (3) Mr. Hasaharu SAITO (Member: Coordination)
    Third Training Division, Training Affairs Department,
    Japan International Cooperation Agency (JICA)

#### 5. Summary

of Findings:

- (1) Present engagement of Ex-participants
- There have been 4 participants from Chile (1982-85). We could meet 3 of them in Santiago. All of them belonged to Pontificia Universidad Catorica de Chile at the time of participation in the course. And we understood from them that they are occupying more important positions in their services, carrying out prominent work.
- (2) Comments and Requests on the Course

  We received valuable comments from the ex-participants and concerned officials. Some suggestions and comments received are as follows:
  - a. The ex-participants have utilized the fruits of the course fully for their daily work as well as other activities outside the university.
  - b. More specific and appropriate planning of study tour/observations are suggested by all the ex-participants.
  - c. The inaccordance of each participant's background can make the result of the course unsatisfactory. We should pay more attention to the difference of that among participants. At the same time, the course implementation in response to the different needs and interest of each participant should be respected.
  - d. Lecture on Design Promotion Policy towards Japanese companies were highly appreciated by the ex-participants. In Chile, the importance of package design for export promotion has been recognized gradually. However, at this moment, there is no comprehensive policy system on design which guides such activities in private sector. Although the relation between public sector and private sector in Chile differs from that of Japan, there would be some relevance to the enhancement of design application to her products.

# 6.Nomination Procedure

0

The Oficina de Planificacion Nacional (ODEPLAN) plans and coordinates the nomination of applicants for JICA's training. In case of this course, Chile has not been offered the opportunity for application since 1986.

Qualifications: Of course, it would be the result from the fact that the priority on this course among all requests towards JICA's Group Training Courses was relatively low. But we take note that the authorities recognize deeply the importance to develop human resourses in this field, and are willing to send participants to the course, not only from Universidad Catolica, but also from other related organizations in the future.

7. Conclusion: Through the activities in Chile, we are impressed by the fact that the ex-participants have been keeping vivid memories of the Course and gave us positive opinions. We sincerely hope that they contribute more for the duffusion of their knowledge and experience in Japan through every kind of 1-50. 7FET opportunities.

> We are grateful to the government officials, ex-participants and concerned institutions for their valuable cooperation, assistance and hospitalities extended to us, without which we could not have achieved the objectives of our visit to Chile.

25th July, 1989 Santiago

Shuya KANEKO

Leader of Follow-up Team for the Ex-participants in the Group Training Course on Industrial Design

#### 2. サマリーレポート (ブラジル)

# FOLLOW-UP TEAM FOR EX-PARTICIPANTS IN THE GROUP TRAINING COURSE ON INDUSTRIAL DESIGN

1. Background:

On behalf of the Government of Japan. Japan International Cooperation Agency (JICA) has been organizing the Group Training Course on Industrial Design and has been received participants from developing countries.

The programme has a duration of about two month and a half in general. Participants are designers in various fields. lecturers and instructors on design who belong to government or semi-governmental organizations, with more than five years' practical experience in the field of industrial design.

The purpose of this course is to introduce the development process of industrial design and its techniques, and thereby contribute to the improvement of industrial design for industrial/export promotion.

By the end of 1988, JICA has accepted 100 participants to the course from 22 countries and 1 region (Hong Kong).

2. Objectives:

With this background, JICA dispatched a Follow-up Team to Chile and Brazil for the following objectives.

- (1) to evaluate the extent of utilization fo what the ex-participants learnt through the course,
- (2) to identify problems/needs they may now have in their daily execution of work.
- (3) to investigate and understand the present situation on industrial design in each country, in order to improve the future programming of this course.
- (4) to get information on the nomination procedures and qualification in order to make them more efficient and appropriate in collaboration with related organizations.
- (5) to hold a Seminar on Design Promotion Policy in Japan and introduce the present situation on design.

3. Period:

From July 19, 1989 to August 7, 1989

4. Members:

- (1) Mr. Shuya KANEKO (Leader of the Team)
  Vice President, GK Graphic Associates
- (2) Mrs. Keiko TAKAHAGI (Member of the Team:
  Design Promotion Policy)
  Chief, Design Promotion Office,
  International Trade Administration Bureau,
  Ministry of International Trade and Industry (MITI)
- (3) Mr. Masaharu SAITO (Member of the Team: Coordination)
  Third Training Division. Training Affairs Department.
  Japan International Cooperation Agency (JICA)

- 5. Summary of Findings:
- (1) Present engagement of Ex-participants
  There have been 17 participants from Brazil (1977-88).
  We could meet 3 of them in Sao Paulo; and 4 in Rio de
  Janeiro. We understood from them that they are
  conducting various activities on design in each field,
  be based on the knowledge and experience which they
  learnt through the course.
- (2) Comments and Requests on the Course
  We received valuable comments from the ex-participants
  and concerned people. Some suggestions and comments
  are as follows:
  - a. The contents and method of this course are highly appreciated by all ex-participants we met. They have utilized fully what they learnt in Japan for their works.
  - b. More stress on design related with advanced technologies, such as computer graphics, CAD/CAM, are suggested by some of the ex-participants. We also understand the importance and utility of such technologies as tools for representing design ideas more effectively and vividly. While we should pay attention to the transfer of appropriate techniques, considering the difference of technical levels between Brazil and Japan, we would like to respect their suggestion in the future.
  - c. Related with the above suggestion, the possibilities for offering the course in other fields, besides the three areas now offered (Industrial Products, Package Design, and Interior Design), such as graphic design are also suggested. Design needed by the society depends on various factors involved in its society (culture, industrial structure, economic & political situation-both domestic and international, comsumers' preference, etc.). Therefore, it is necessary for us to review the contents and way of conducting this course, in response to changes of the needs for design.
- (3) Present situation of design fields in Brazil
  Through hearing from ex-participants and concerned people, and several visits in Brazil, we understood present situation of design fields to some extent.

Some findings we would like to mention here are as follows:

- a. In accordance with the advancement of industries in Brazil, designers have just started to find their duty among the industrial structure. At the same time, people in business fields, especially in industrial sectors, are now aware, although little by little, that the application & improvement of design for their activities are necessary and profitable. We are sure that there exists the potential of expanding the role of designers.
- b. As for the above finding, it appears that the function to connect between designers and people in private industries is just in need in Brazil. Some organizations like FIESP are trying to make such a role, but there seems to be some discrepancy in recognition on design, both from designers' side and from the other side. This is because of the fact that they do not understand the possible way to promote design for the society.
- c. Therefore, for the expantion of the activities by designers, it is necessary for them, not only to educate designers inside universities or research institutes, but also to get contact and exchange the views with people outside design fields who have real needs for design in business fields.

6. Nomination Procedure & Qualifications Divisão de Formação e Treinamento (DFTR) of Dept. de Cooperação Científica. Técnica e Tecnológica (DCT). Ministério das Relações Exteriores plans and coordinates the nomination of applicants for JICA's training.

In most of the organizations and institutions we have visited, they told us that they hope to send their staffs to this course. The number of participants we accept in each year is limited-in principle, one from each country.

For that reason, it is almost impossible to increase the number of participants only from Brazil. However, in order to make the nomination procedures smooth, we will make effort to send General Information (GI) as soon as possible.

7. Conclusion: Through the activities in Brazil, we are impressed by the fact that the ex-participants have been keeping vivid memories of the Course and gave us positive opinions. We sincerely hope that their work in business fields expands rapidly but constantly, and thereby contribute to industrial development in Brazil.

We are grateful to the ex-participants and concerned organizations for their valuable cooperation, assistance and hospitalities extended to us, without which we could not have achieved the objectives of our visit to Brazil.

4th August, 1989 Rio de Janeiro

Shuya KANEKO

Leader of Follow-up Team for the Ex-participants in the Group Training Course on Industrial Design

# 資料(1) 帰国研修員宛質問表フォーム

QUESTIONNAIRE FOR EX-PARTICIPANTS
IN
INDUSTRIAL DESIGN

JULY, 1989

JAPAN INTERNATIONAL COOPERATION AGENCY

We appreciate greatly your cooperation in answering the following questions (Please write in block letters or typewrite). I. GENERAL OUESTIONS 1) Full Name (Please underline your surname): 2) Country: \_\_\_\_\_\_\_ 3) Date of Birth: \_\_\_\_\_ 4) Home address: 5) Official address: 6) Year of participation in the Course: 7) Employment record: a. Post, Duty, and Name of Organization before training in Japan Dates of service: From\_\_\_\_\_\_\_ to\_\_\_\_\_ Titles of Posts he'l'd: Name of Organization: b. Present Post, Duty, and Name of Organization Dates of service: From to Titles of Posts held: Name of Organization: II. QUESTIONS ON THE OCCUPATION 1) How are your present duties related with the training you received in Japan?

-	
•	
C	old you have any specific opportunities to report on the knowledge or
	experience acquired through the Course? If any, please explain it
	riefly(To whom / In what a way - lecture.publications.etc.).
ł	low are you making use of the knowledge and experience you acquired
	in Japan? Please mark appropriate boxes.
	In Japan? Please mark appropriate boxes.  I am utilising the above experiences for;  Lectures in school or training center  Training courses and seminars
	In Japan? Please mark appropriate boxes.  I am utilising the above experiences for;  Lectures in school or training center Training courses and seminars Making reports and writing articles in technical literature
	In Japan? Please mark appropriate boxes.  I am utilising the above experiences for;  ☐ Lectures in school or training center  ☐ Training courses and seminars  ☐ Making reports and writing articles in technical literature  ☐ On-the-job training
	In Japan? Please mark appropriate boxes.  I am utilising the above experiences for;  Lectures in school or training center Training courses and seminars Making reports and writing articles in technical literature
j	I am utilising the above experiences for;  Lectures in school or training center  Training courses and seminars  Making reports and writing articles in technical literature  On-the-job training  Others
j	I am utilising the above experiences for;  Lectures in school or training center  Training courses and seminars  Making reports and writing articles in technical literature  On-the-job training  Others
j	I am utilising the above experiences for;  Lectures in school or training center  Training courses and seminars  Making reports and writing articles in technical literature  On-the-job training  Others
j	In Japan? Please mark appropriate boxes.  I am utilising the above experiences for;  ☐ Lectures in school or training center  ☐ Training courses and seminars  ☐ Making reports and writing articles in technical literature  ☐ On-the-job training

	<u></u>		<del></del>		<del> </del>				
		<del></del>				<u> </u>			<u> </u>
	<del></del>	<del></del>		· <del>, -</del>	<del></del>			<del>_</del>	
					<u> </u>		·		<del></del>
	<del></del>		<del></del>				<del></del>		
			<del></del>	<del></del>					* 11
7)	Please po	oint ou	t the diff	ficulti	es, if an	y, you	have	exper	ienced
			solving th					•	-
								, •	- 1
			<u> </u>						
	·					·			
								_	
		THE T	RAINING CO		•				
	STIONS OF Duration	THE T	-						
	Duration		RAINING CO	DURSE	-				
1)	Duration  1  too		RAINING CO 3 just	DURSE	5 l too				
1)	Duration  1  too short		RAINING CO 3 just	DURSE	5 l too				
1)	Duration  1  too short  Level	2	RAINING CO 3 just right	OURSE 4	5 too long				
2)	Duration  1 too short  Level 1 too element	2 2 ary	PAINING CO  3  just right  just right	OURSE  4  4	too long 5 too advance				
2)	Duration  1 too short  Level 1 too element	2 2 ary	PAINING CO  3  just right  3  just	OURSE  4  4	too long 5 too advance				

<del></del>						
useful in th	two major it e Course.					
Could you wr above-mentic	ite down what ned technique					
your duties?						
your duties?					<del></del>	<u> </u>
your duties?	•					
your duties?						
Were you sal	isfied with t	the field	trips and			
Were you sal	isfied with to 2 3	the field	trips and			
Were you sal	isfied with t	the field	trips and	observat		
Were you sale anot enough	isfied with to 2 3	the field 4 1	trips and 5 fully satisfied	observat	ions?	n what
Were you sale anot enough	isfied with to 2 3 in the state of the state	the field 4 1	trips and 5 fully satisfied	observat	ions?	n what

	graphic, property rights, etc.). In what areas do you think will be more useful for training in the future?
10)	Please give us any comments which you may consider useful for us in organizing the future Course.
•	
_	ESTION ON THE FOLLOW-UP ACTIVITIES at kind of follow-up activities of the course do you request?
	ease mark appropriate items.  ☐ Sending literature and technical information
	<ul><li>□ Technical consultation</li><li>□ Retraining of re-fresher training</li><li>□ Others, if any</li></ul>
	ESTIONS ON THE FRIENDSHIP ACTIVITIES AMONG THE EX-PARTICIPANTS  Do you have an alumni association in your country?
2).	What kind of activities do you have every year?

	ou have any : same course			ith other ex-participar r country?	nts in
_					
1) Have	you ever pa	rticipated	in a t	TED BY OTHER FOREIGN COraining course conductories anese Government?	
the	course regar	ding to th			the outline of
			/	to	
	ration from			•	
- - -					
1) To 1	ONS ON DESIG what extent ign and its	are these t	wo gro	OUR COUNTRY ups interested in the (	development of
	eople engage			ctivities	
•	1 2	3	4	5	
	<u> </u>		1		
n	o interest	to some extent		interested so much	
b. p	ublic				
	1 2	3	4	5	
n	o interest	to some extent	1	interested so much	

3) I	In	what way do you think design is considered in the consumers' tr
i	in .	your country? Please give us a brief comment.
	,	
		t do you think the relationship between export of products and ir designs these days?
		•
		•
		•
5) 4	the Are	ir designs these days?
5) 4	the Are	ir designs these days?  there any problems of plagiarism with regard to design? If a
5) 4	the Are	ir designs these days?  there any problems of plagiarism with regard to design? If a
5) 4	the Are	there any problems of plagiarism with regard to design? If a ase mention the case. And is there any law concerning them?
5) 4	the Are	there any problems of plagiarism with regard to design? If a ase mention the case. And is there any law concerning them?
5) 4	the Are	there any problems of plagiarism with regard to design? If ase mention the case. And is there any law concerning them?

b. Sc	cale (number of participants, budgetary source, etc.)
c. Du	ration aboutyear(s)/month(s)/week(s)
5. Cc	entents
-	
3) For	the participant who answered "NO", please mention the possibilit
	such a system to be established.
•	
•	
•	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
4) Are	there any design training systems in private sector?
	the participant who answered "YES", please give us the outline system regarding to the following items.
	ame of the system
b. S	cale(number of participants, budgetary source, etc.)
c D	uration about year(s)/month(s)/week(s)
•	ontents

•

-	design? If any, please give us the outline of organization
	arding to the following items.
	Name & Address of the Organization / Name of the Representative
b.	Scale(number & types of Members, etc.)
с.	Are you a Member of the Organization?
d.	□YES □NO Its Activities
e.	Name of the publications, if any (and their frequencies).  (annually/monthly/weekly)
	(annually/monthly/weekly
It	re there any private-owned professional associations for design?  The any, please give us the outline of association regarding to the collowing items.
	Name & Address of the Association / Name of the Representative
b.	Scale (number & types of Associates, etc.)
с.	Are you a Associate of the Association?

d. Its	Activities
e. Namo	e of the publications, if any (and their frequencies).
	<pre>(annually/monthly/weekly (annually/monthly/weekly</pre>
	(onnouncy) women's
	u have any other publications regarding to development and
-	tion of design and its technique in your country? If any,
•	e give us the name and other following items.
a. Nam	e of the publication and'its frequency (annually/monthly/weekl
h Nam	e & Address of the publisher
<b>0.</b> 110	o a hadross or the positioner
<u> </u>	
c. Con	tents
_	
_	
train	ou have any experience to take part in the activities of those sing systems or organizations in some ways? If any, please in the case briefly.
_	
-	
_	
_	

Thank you for your kind cooperation.

# (2) 昭和63年度インテリアコース研修日程表

月	B			研修内容
9	5	月	詏	川尚式
	6	火	実	コースオリエンテーション/プレゼンテーション
	7	水	캢	
				<b>講義2:日本のインテリア商品の消費と流通</b>
	8	木	誠	講義3:日本のインテリア産菜の現状
				講義4:デザインプロモーション
	9	金	夹	ペーシック・デザイン(日本を取り巻く環境)
	10	土	-	
	11	B	_	
	12	月		フリーディスカッション(テーマの方向づけ)
}	13	火		跳義5:日本の商業空間
				フリーディスカッション(テーマの方向づけ)
, ,	14	水	夹	ベーシック・デザイン(日本を取り巻く現境)
1 1	15	木	_	
	16	金		ベーシック・デザイン(日本を取り巻く現境)
	17	土	実	"
	18	H		
	19	月	1	講義6:OAとオフィス空間
1			実	
1	20	火	諧	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
1			器	
	21	水土		1
	22	木	突	中間報告1:エヴァリュエーション
	23	金	<del>-</del>	•
	24 25	土	_	·
		日日		ニボノン、は、ベノイノンニョウ・マック・マルロン
	26 27	月ル	実	デザイン・サーベイ(インテリア・デザインの背景)
	28	火水	実実	n
	25	木	実実	
	30	金	突	" デザイン・サーベイまとめ
		30.		7712 9 1120

月	Ħ			研修内容
<del> </del>				
10	1	土	爽	デザイン・ワーク(デザインと産業)
],	2	日	-	A
1.	3	月	講	
];	_ [		臭	デザイン・ワーク(デザインと産業)
1	4	火	実	"
,	5	水	実	"
1	6	木	実	"
[;	7	金	実	n
	8	丰	夹	n
	9	日日	_	/
	10	月		学学10、おどの計学は対しまって
	11	火	歸	講義10: 家具の構成材料と加工
	12	水	実実	デザイン・ワーク
}	13	木	•	"
	14	金	実	" 中間報告2:エヴァリュエーション
	15	土	実	デザイン・ワーク
	16	日日	_	
	17	月	誻	講義11:日本のインテリアデザイン教育
		-	実	デザイン・ワーク
	18	火	謝	<b>講義12:プレゼンテーション・テクニック</b>
			実	プレゼンテーション・テクニック
	19	水	実	, n
	20	木	奥	フィニッシュ・ワーク(バネル表現)
	21	金	実	n
	22	土	実	n
	23	日	-	
_	24	月	実	フィニッシュ・ワーク(パネル表現)
	25	火	実	"
	26	水	実	· <i>n</i>
	27	木	実	n
[· .]	28	金	実	<i>)</i> ;
-	29	土	実	n
	30	日日		
	3 1	月	実	フィニッシュ・ワーク (パネル表現)

月	日			研修内容
11	1 2 3 4 5 6 7 8	火水木金土日月火	見見見見見	フィニッシュ・ワーク/レポートまとめ

謝: 講義/見: 見学・情報収集/実: 実習

## (3) 年度別研修員参加実績

年度 テーマ	49 デザイ ン と	50 デザイ ン 全 般	ストリ	リアデ	ージデ	リアデ	ストリ	ージテ	リアデ	ストリ	ージデ	リアデ	6l インダ ストリ アルデ	ージデ	リアデ	計
	<u> </u>	- AI	ザイン	777	377	772	ザイン	777	,,,,	ザイン		2-12	サイン	717	747	
アフガニスタン	1			1		,	•							,		2
パングラデシュ	2			,				,								2
プラジル	,	,		2	. 2	2	2	2	1		2		2	1	1	17
ピルマ		-						1								1
チリ									1	1	1	1	·			4
中军人民共和国				ŧ		,			1				1			2
キューバ	j.					, ,,		-				1				1
エジプト						-	1					v			1	2
香 港		2	1				i	1	1	1						7
インド	2										1					3
インドネシア	1	1			1											3
イ ラ ン	2			1		·										3
イラック		1	ı		1				1					-		4
4 国	1	1	1									1	1	1		6
マレイシア	' ^		1			1	1	1			1	1				6
メキシコ			-											1	1	2
ネパール	2															2
パキスタン	1	-													-	1
フィリピン	. 2	·	1	1	1	- 1-	1	1			-		1		1	10
シンガポール	1	1				1.	~									3
スリランカ	1		_	1		-	·									2
9 1		1	. 1	- 1	2	1	1		1	2	1		1	1	1	14
トルコ				1.	-	-	-							1	1	3
1†	16	7	5	8	7	6	7	6	6	4	6	4	6	5	6	100

## (4) テーマ別研修員参加実績

テーマ	デザイン	クラフト	インダス	インテリア	パッケージ・	
	摄 異	デザイン	トリアルデザイン	デザイン	デザイン	- 61
アフガニスタン	1		-	1	manager and the second	2
バングラデシュ	2					2
プラジル			. 4	6	7 -	1,7
ピル・マ					1	. 1
チリ			-1	2	1	4
·中華人民共和国			1	1		2
キューバ		<u>.</u>		1	;	1
エジプト			1	: 1		2
香 港		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	4	1	2	7
インド	1	1			1	3
インドネシア			2	-	1	. 3
イ・ラ ン	2	·		1		3
イ ラ ク			2	1	1	4
韓 国			3	1	2	6
マレーシア			2	2	2	6
メキシコ				1	1	2
ネパール	1		1		•	2
バキスタン		1	-		-	1
フィリピン			3	5	2	10
シンガボール			1	2		3
スリランカ	. 1			;1		. 2
g ··· 1	-		5	4	5	14.
トル・コ	-	-		2	1	3
計	- 8	- 2 -	3 0-	3.3	2 7	100

